

# 盛岡市内遺跡群

—令和3年度発掘調査報告書Ⅱ—

小屋塚遺跡 第45次

里館遺跡 第68次

2024.9

盛岡市教育委員会

# 盛岡市内遺跡群

—令和3年度発掘調査報告書Ⅱ—

小屋塚遺跡 第45次

里館遺跡 第68次

2024.9

盛岡市教育委員会



# 序 言

盛岡市は、北上平野を縦断する北上川と、その東西に位置する北上山地と奥羽山脈のそれぞれから流れ出る中津川・雫石川との合流点に位置し、雄大な岩手山や姫神山を望む約30万人の人口を抱える岩手県の県都です。北東北の拠点都市として緑豊かな環境と高度都市機能の調和したまちづくりを目指しています。

市内には、旧石器時代から江戸時代まで、789箇所の遺跡が存在します。その中には、国・県・市指定の史跡として保存・活用が図られているものもありますが、各種開発等によって姿を変え、消滅していく遺跡があることも事実であります。

盛岡市では、文化財保護の立場から、国の補助を受け市内各地の個人住宅建築に伴う調査を継続的に実施しており、当市の歴史を紐解くうえで、大変貴重な成果を上げております。

本書は、令和3年度に実施した市内遺跡群の発掘調査報告書であります。市民の皆様への地域理解の一助として、また学術的な研究資料として広く活用いただけましたら幸いと存じます。

最後になりましたが、発掘調査を実施するにあたり、多大なる御指導や御助言を賜りました文化庁文化財第二課、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課、発掘調査に御理解と御協力を頂いた地権者各位及び地元関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

令和6年9月

盛岡市教育委員会

教育長 多田 英史



# 例 言

- 1 本書は、令和3年度国庫補助事業「盛岡市内遺跡群」の発掘調査報告書である。
- 2 本書は遺構及び遺物の実測図などの資料呈示を意図して、編集を鈴木俊輝が、執筆を神原雄一郎、今野公顕が担当し、菊地幸裕、花井正香、今松佑太、杉山一樹、田老茜理、佐々木あゆみ、浜谷佑、羽澤圭織が協力した。
- 3 遺構の平面位置については、過去の調査との整合性のため日本測地系を用い、平面直角座標系X系を座標変換した調査座標で表示した。なお、方位は座標北を表している。

小屋塚遺跡 調査座標原点 X - 32,000.000m Y + 24,500.000m = R X ± 0.000 R Y ± 0.000

里館遺跡 調査座標原点 X - 32,000.000m Y + 24,500.000m = R X ± 0.000 R Y ± 0.000

- 4 高さは標高値をそのまま使用している。
- 5 土層図は堆積のあり方を重視し、線の太さを使い分けた。土層註記は層理ごとに本文で記述又は表に記載し、個々の層位については割愛した。なお、層相の観察にあたっては『新版標準土色帖』（2013小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業(株)発行）を参考にした。
- 6 遺構の名称及び記号は次のとおりである。

小屋塚遺跡				里館遺跡			
遺 構	記 号	遺 構	記 号	遺 構	記 号	遺 構	記 号
竪穴建物跡	RA	土 坑	RD	土取跡	RX	堀・溝跡	SD

- 7 本書中の地図は、国土交通省国土地理院発行の2万5千分の1「盛岡」「小岩井農場」の地形図を使用し、1万分の1、5万分の1に縮小・編集したものを掲載している。
- 8 発掘調査に伴う出土遺物及び諸記録は、盛岡市遺跡の学び館に保管してある。
- 9 本調査の一部については発掘調査成果報告会や速報展等で報告・発表しているものがあるが、本書の記載内容をもって訂正する。
- 10 調査体制 - 令和3年度～令和6年度 -

[調査主体] 盛岡市教育委員会

教育長 千葉 仁一（～R3年度）、多田 英史（R4年度～）

教育部長 岡市 和敏（R3年度）、渡邊 猛（R4年度～）、下田 法子（R6年度）

教育次長 川原 善弘（R3年度）、工藤 浩統（R4年度）、下田 法子（R5年度）、鈴木 茂也（R6年度）

[調査総括] 歴史文化課 遺跡の学び館

課長兼館長 割船 活彦（～R4年度）、高橋 智巳（R5年度）、小國 渉（R6年度）

館長補佐 大森 勉（～R5年度）、菊地 幸裕（R6年度）

[調 査] 文化財副主幹 菊地 幸裕（～R5年度）、津嶋 知弘（～R5年度）、神原雄一郎※小屋塚遺跡（調査・整理）

文化財主査 今野 公顕※里館遺跡（調査・整理）、花井 正香

文化財主任 鈴木 俊輝※里館遺跡（調査）

文化財主事 今松 佑太※小屋塚遺跡（調査）、杉山 一樹

田老 茜理（R5年度～）、小野寺 華子（R6年度）

文化財調査員 佐々木あゆみ、浜谷 佑、松野 恵子（R6年度）

室野 秀文（～R4年度）、羽澤 圭織（R5年度～）

[管理・学芸] 主任 杉浦 雄二（～R5年度）、吉田 和幸（R6年度）、岩崎 綸（R6年度）

文化財調査員 伊藤 聡子

学芸調査員 千葉 貴子、樋下 理沙

[発掘調査・室内整理作業]

秋元理恵、阿部真紀子、阿部理絵、佐々木富士子、佐野光代、袴田英治、袴田千佳、樋口泰子、

平川悠樹、細田幸美、村上美香、山田聖子

[地権者・助言・調査協力]

寺島英明、鈴木健太、鈴木悠佳、岩手県教育委員会

（五十音順、敬称略）

# 目 次

序 言	
例 言	
目 次	
表 目 次	
挿 図 目 次	
写真図版目次	

I 令和3年度発掘調査の概要	1
II 小屋塚遺跡（第45次調査）	5
III 里館遺跡（第68次調査）	23
写 真 図 版	
報告書抄録	

# 表 目 次

第1表 令和3年度 盛岡市内遺跡群発掘調査事業調査遺跡一覧	1
第2表 小屋塚遺跡調査一覧	6
第3表 里館遺跡調査一覧	25

# 挿 図 目 次

第1図 地形分類と周辺の遺跡分布	3
第2図 小屋塚遺跡の位置（1：10,000）	5
第3図 小屋塚遺跡全体図	7
第4図 小屋塚遺跡第45次調査全体図	8
第5図 R A7102～7104竪穴建物跡、R D7130・7131・7133・7135土坑断面図	16
第6図 R A7102～7104竪穴建物跡・R D7129土坑出土土器	17
第7図 R D7130・7131・7134土坑、R X7000土取跡出土土器	18
第8図 R X7000土取跡、遺物包含層出土土器	19
第9図 小屋塚遺跡第45次調査出土石器（1）	20
第10図 小屋塚遺跡第45次調査出土石器（2）	21
第11図 里館遺跡の位置（1：50,000）	23
第12図 里館遺跡全体図	26
第13図 里館遺跡第68次調査全体図	29
第14図 S D408堀跡（1）	30
第15図 S D408堀跡（2）	31

# 写真図版目次

第1図版 小屋塚遺跡第45次調査区全景、RA7102竪穴建物跡全景、RA7103竪穴建物跡全景、RD7129土坑全景、RX7000土取跡全景

第2図版 里館遺跡第68次調査区全景、SD408堀跡トレンチ1全景、SD408堀跡トレンチ2全景、SD408堀跡トレンチ2ピット

## 《遺物の表現について》

### (1) 土器

- a 土器の実測図・拓本の縮小率は1/3とした。
- b 挿図の配列については、器種・器形・出土層位でまとめた。
- c 稜線・沈線は実線・破線で表現し、陰影は表現していない。

### (2) 石器

- a 剥片石器の縮小率は2/3、礫石器は1/2とした。
- b 石器の展開順序は、基本的に左側に表面（背面）、中央に右側面、右側に裏面（腹面）を配列し、必要に応じて縦断面・横断面を付け加えた。
- c 挿図の配列については、器種ごとにまとめ、層位順に配列した。
- d 摩擦痕は網目（スクリーントーン）で示し、自然面はドットで表現した。

### (3) 土製品、石製品

- a 土製品、石製品の縮小率は1/2及び1/3とした。
- b 石製品の自然面はドットで表現した。

### (4) 挿図中の記号・番号は遺物の出土位置及び出土層位を表している。

(例) RA369 B層 → RA369竪穴建物跡内埋土B層より出土

(例) G9-B21 VI層

↓ ↓ ↓  
※1 ※2 ※3

※1 調査座標原点RX±0 RY±0を起点として、X・Y両軸を50mごとに区切る大グリッドを設定し、X軸線上を西から東へA・B・C…W・X・Y（東から西への場合は-A・-B・-C…-W・-X・-Y）、Y軸線上を北から南へ1・2・3…23・24・25（南から北への場合は-1・-2・-3…-23・-24・-25）と付し、北西隅のこれらのアルファベットとアラビア数字の組み合わせを大グリッドと呼称した。

※2 大グリッドを2mごとに細分割し、小グリッドを設定し大グリッドの呼称を再び用いた。よって大グリッド-小グリッドという組み合わせで、遺物の平面出土地点を2mごとに表示した。

※3 遺物の出土層位を表している。

## 《遺構の表現について》

遺構の挿図中、説明する当該遺構については実線で表現した。また、説明遺構と切り合った遺構については一点鎖線、オーバーハング及び推定線は破線で表現した。

# I 令和3年度発掘調査の概要

## 1 令和3年度事業の概要

**発掘調査** 令和3年度は、発掘調査・試掘調査をあわせて26件実施した（学術調査・現状変更除く）。このうち国庫補助事業（盛岡市内遺跡群発掘調査事業）で実施した発掘調査は本調査3件である（第1表）。なお、二又遺跡については、令和5年度に報告書を刊行済みである。

第1表 令和3年度 盛岡市内遺跡群発掘調査事業調査遺跡一覧

遺跡名	所在地	調査期間	調査面積	調査原因
小屋塚遺跡（第45次）	盛岡市大新町10-8	21.04.19～05.31	65.15㎡	個人住宅建築
二又遺跡（第16次）	盛岡市下飯岡1地割56-14	21.10.18～12.06	201.4㎡	個人住宅建築
里館遺跡（第68次）	盛岡市天昌寺町423-6	21.05.13～06.09	104.5㎡	個人住宅建築

## 2 盛岡の地形・地質

盛岡市は東に北上山地、西に奥羽山脈を擁し、北西には岩手山（標高2,038m）を望む。中央の北上平野には東北一の大河である北上川が流れる。北上山地と奥羽山脈は、構成する地質やその形成年代が異なるため、東西の地形の様相は大きく異なる。また、岩手山を含む八幡平火山地域の火山活動も盛岡の地形・地質に大きく影響を及ぼしている。

**北上山地** 北上山地は日本列島の中でも形成年代の古い地層が分布する地帯であり、古生代や中生代の堆積岩及び火成岩からなる。これまで、北上山地の地質を南北に区分する境界断層帯は早池峰構造体と呼ばれていたが、近年の研究によって地帯区分の整理が進み、現在、北上山地の地質はその構造史より、北部北上帯、南部北上帯とその間に分布する根田茂帯の大きく三つに分けられる。盛岡市東部は根田茂帯の西縁にあたる。これらの山地縁辺には、中津川・築川などの北上川水系の河川やその支流により浸食された丘陵地や中位・低位の段丘が発達している。

盛岡市北東部を流れる中津川は、その最大支流である米内川と盛岡市浅岸付近で合流して水量を増し、市街地を西流して北上川と合流する。築川は盛岡市東部、北上山地の分水嶺となる岩神山（標高1,103m）の西斜面より流れ、最大支流である根田茂川と盛岡市水沢付近で合流し、閉伊街道（宮古街道）に沿って蛇行しながら、盛岡市東安庭付近で北上川と合流する。その流れは丘陵地や高位段丘面を開析して流域沿いに中・小規模な低位段丘を形成する。

**奥羽山脈** 奥羽山脈は北上山地に比べると比較的新しい新第三紀からなる非火山地域と、第四紀に形成された新規火山地域に区別される。岩手山はこの新規火山地域に含まれる。雫石川は奥羽山脈より東流し、雫石盆地を形成する。その流れは烏泊山と箱ヶ森に挟まれた盛岡市北の浦付近において急激に流路が狭められ、その狭窄部を抜けて北上平野に流れ込む。雫石川北岸および南岸ではその地質が大きく異なり、雫石川北岸には、岩手山起源の大石渡岩屑なだれ堆積物を基盤とした火山灰砂台

地（滝沢台地）が広がっている。その範囲は滝沢市北部から盛岡市北部まで広範囲に及んでいる。

雫石川南岸には、雫石川の流路転換によって運ばれた土砂で形成された沖積段丘が広がっている。雫石川は、これまでに何度も流路を変えており、雫石川南岸に広がる沖積段丘の形成に大きな影響を及ぼしている。この沖積段丘は、水成砂礫層を基底とし、その上層に水成シルト、さらに表土が覆っている。このシルト層は旧河道などの低地形ばかりではなく、微高地上にも堆積している。これは沖積段丘が、河道の定まらない雫石川の下刻によって周辺山地からもたらされた砂礫やシルトによって形成され、何度も堆積が繰り返されたことによるものである。雫石川の旧河道は幾筋も確認されており、大きなものは4条、その他にも網目状に細かな旧河道が沖積段丘に広がっている。現在は圃場整備や宅地造成が進み、旧地形を留めているところは少なくなってきたが、航空写真などを見ると、旧河道の流路が残された水田や古い住宅街の区割り等で確認できるところもある。

### 3 歴史的環境

**旧石器時代** 旧石器時代の遺跡は、市街地から北東へ約20kmの蕨川字外山に小石川遺跡が所在する。山間部の小河川に臨む台地上にあり、旧石器時代終末期の珪岩製尖頭器や黒曜石製の石核、剥片などが多数出土している。また、岩洞湖を隔てた対岸には細石刃と細石刃核が採集された大橋遺跡が位置する。

**縄文時代** 滝沢台地上に立地する大新町遺跡・大館町遺跡・安倍館遺跡からは、縄文時代草創期の「爪形文土器」が出土している。滝沢台地上には後続する縄文時代早期の遺跡が数多く存在し、前述の3遺跡以外にも大館堤遺跡・館坂遺跡・前九年遺跡・宿田遺跡などで縄文時代早期初頭～末葉の土器が出土している。

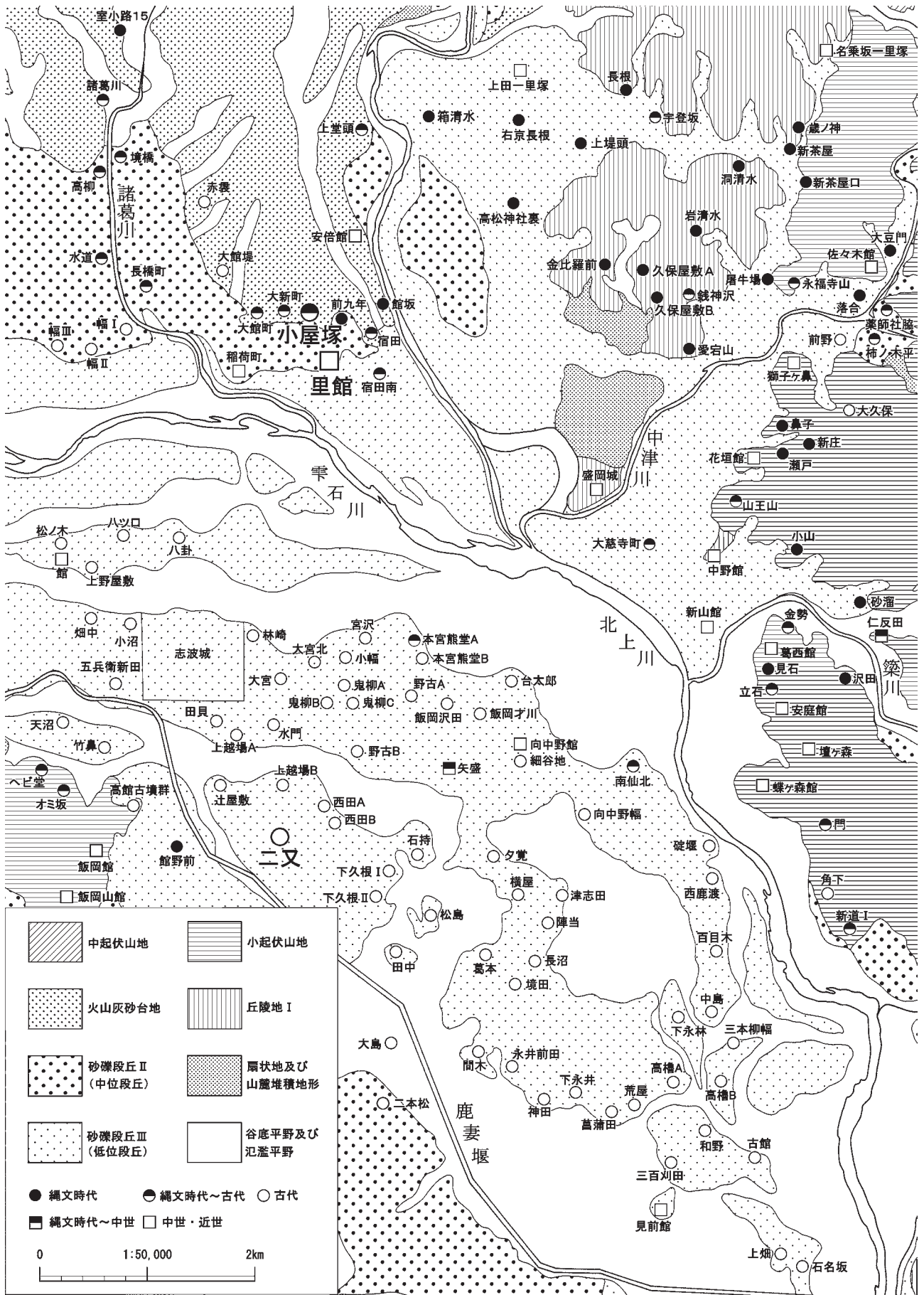
縄文時代前期は日本列島全体で温暖化が進み、遺跡数が増加し大規模な集落が出現する時期である。しかし、盛岡周辺に限っては北上山地内に散見するのみで遺跡の数は少なく、上八木田Ⅰ遺跡・畑遺跡などで確認されている程度である。これは、約6,000年前に起こった岩手山の山体崩壊による自然災害の影響が関連していると考えられている。

縄文時代中期になると遺跡数は爆発的に増加し、雫石川南岸の沖積平野を除く広い地域に分布する。繫Ⅴ遺跡・大館町遺跡・柿ノ木平遺跡・川目Ⅱ遺跡・湯沢遺跡など、主要河川の流域や山麓の扇状地状の地形などに大規模な拠点集落が営まれるようになる。

縄文時代後期から晩期には、集落の規模は小さくなり、遺跡数も減少する。柿ノ木平遺跡や大葛遺跡では後期初頭の集落、萩内遺跡や湯壺遺跡では後期から晩期の集落が確認されている。また、宇登遺跡・上平遺跡では晩期の埋設土器や遺物包含層、手代森遺跡では晩期の集落と遺物包含層が確認されている。

**弥生～古墳** 弥生時代の遺跡数は少ないが、繫Ⅵ遺跡では前期の竪穴建物跡と中期の再埋葬が確認されており、浅岸地区の向田遺跡・堰根遺跡では、前期（砂沢式期）や後期（赤穴式期）の土器を伴う竪穴建物跡が確認されている。古墳時代の集落遺跡は現在のところ確認されていないが、永福寺山遺跡や薬師社脇遺跡で4～5世紀の北海道系の形態をもつ土坑墓群が確認されている。永福寺山遺跡では後北C2-D式土器と4世紀の土師器が共伴し、薬師社脇遺跡では5世紀の土師器壺、甕、鉢、鉄鏃等の鉄器、管玉等の玉類が埋納されていた。





第1図 地形分類と周辺の遺跡分布

古 代 古墳時代終末から奈良時代にかけて、雫石川南岸等沖積面の遺跡が飛躍的に増加する。7世紀前半の遺構・遺物は少ないが、竹鼻遺跡で確認されている。7世紀中ごろには上田蝦夷森古墳群、8世紀代には太田蝦夷森古墳群、高館古墳群などの末期古墳が築造され、野古A遺跡・台太郎遺跡・百目木遺跡などで安定した集落が形成される。

平安時代になると、803年に桓武天皇の命を受けた坂上田村麻呂によって、陸奥国最北端の城柵志波城が造営された。志波城は陸奥北部地域の経営拠点であると同時に、北方地域との結節点でもあったが、雫石川の度重なる氾濫被害などを理由に、811年頃には徳丹城（矢巾町）へ規模を縮小して移転している。その後9世紀中ごろより、陸奥北部の経営体制は鎮守府胆沢城に集約されていく。大宮北遺跡・林崎遺跡・細谷地遺跡・大島遺跡などでは、集落の中に官衙的な掘立柱建物や倉庫群が配置され、石帯具など律令制関連遺物や仏教祭祀的な遺物等が出土するなど、在地の有力者が律令体制を背景に台頭する様子がうかがえる。この時期の集落は沖積面だけではなく、山麓地や丘陵の斜面にも拡がりをみせる。

10世紀後半から12世紀までの遺跡は少ないが、大新町遺跡や小屋塚遺跡では、11世紀前半頃の掘立柱建物跡や竪穴跡と土器が出土している。また、境橋遺跡・宿田遺跡・上堂頭遺跡でも11世紀前半の遺構遺物が確認されている。赤裳遺跡では土器生産工房跡が確認され、竪穴建物跡の窪みを利用した土器焼成土坑からは、数千点に及ぶ11世紀中葉の土器が出土している。これらは儀礼行為に供されたものとみられ、陸奥鎮守府の在庁官人として台頭した安倍氏が前九年合戦の際に拠点にしたとされる、厨川柵・姫戸柵が近くに存在することを裏付けるような調査成果が上がっている。

12世紀の村落や屋敷、居館の遺構は、落合遺跡・堰根遺跡・稲荷町遺跡などで確認されている。また、奥州藤原氏の影響下にあったとされる宗教遺跡も多数存在する。12世紀以降、街道筋や山頂などに経塚が築かれるようになり、内村遺跡では経塚に埋納したとみられる常滑窯産の大甕が出土しているほか、湯壺経塚からは常滑窯産の三筋文壺、一本松経塚からは渥美窯産の壺が発見されている。大宮遺跡では、大溝跡から12世紀末～13世紀初頭のかかわりが大量に廃棄された状況で出土しており、在地勢力拠点が営まれていた可能性がある。

中 世 鎌倉時代から室町時代については、台太郎遺跡で不整五角形の堀を巡らす居館跡や村落跡、宗教施設と考えられる遺構や墓域等が確認されている。向中野館遺跡や矢盛遺跡でも、在地領主の居館跡と考えられる掘立柱建物跡や堀跡が確認されている。戦国期の盛岡周辺は、南部氏、斯波氏などの衝突が激しかった地域であるが、市内に数多く分布する城館跡の多くは、室町時代から戦国時代のものと考えられている。これらの城館跡は丘陵や山頂など見晴らしの良い場所だけでなく、平野部でも、交通の要衝にあたる微高地上などに多数築かれている。現在の盛岡城の場所には南部氏の家臣であった福士氏が築いた北館（慶善館）、南館（淡路館）からなる不來方城が存在した。

近 世 現在の城下の町並みの形成は、その南部氏の盛岡城築城から始まる。九戸合戦終結後の天正19年（1591）、南部信直は帰還する豊臣軍の軍監浅野長政から不來方城において、この不來方の地に新城を築くよう、積極的に奨められている（『祐清私記』）。その後、慶長2年（1597）から盛岡城の築城は始まり、寛永10年（1633）に一応の完成をみる。石垣補修の発掘調査などにより、盛岡城はその後1～5期の変遷を経て現在に至っていることが分かっている。



## Ⅱ 小屋塚遺跡（第45次調査）

### 1 遺跡の概要

**遺跡の位置** 小屋塚遺跡は、盛岡駅より北西へ約2.5kmの盛岡市大新町地内に位置する。かつては畑地が主体を占めていたが、現在は宅地化している。遺跡中央部には市道が南北に通る、市道からの進入路が東西に通る。遺跡の範囲は東西約250m、南北約150mの規模と推定され、標高は134～137mである。（第2図）

**遺跡の地形** 滝沢台地の南東部は北上川に沿って南へ舌状に張り出しており、諸葛川、木賊川、菓子川などで開析され、幾筋もの埋没谷が入りこんでいる。小屋塚遺跡はその滝沢台地南縁の緩斜面に立地している。周辺には大館町・大新町・大館堤・前九年遺跡など縄文時代早期～中期を中心とした遺跡が分布し、各遺跡は埋没谷や旧河道などによって画されている。（第1図）



第2図 小屋塚遺跡の位置 (1 : 10,000)



## 2 調査成果

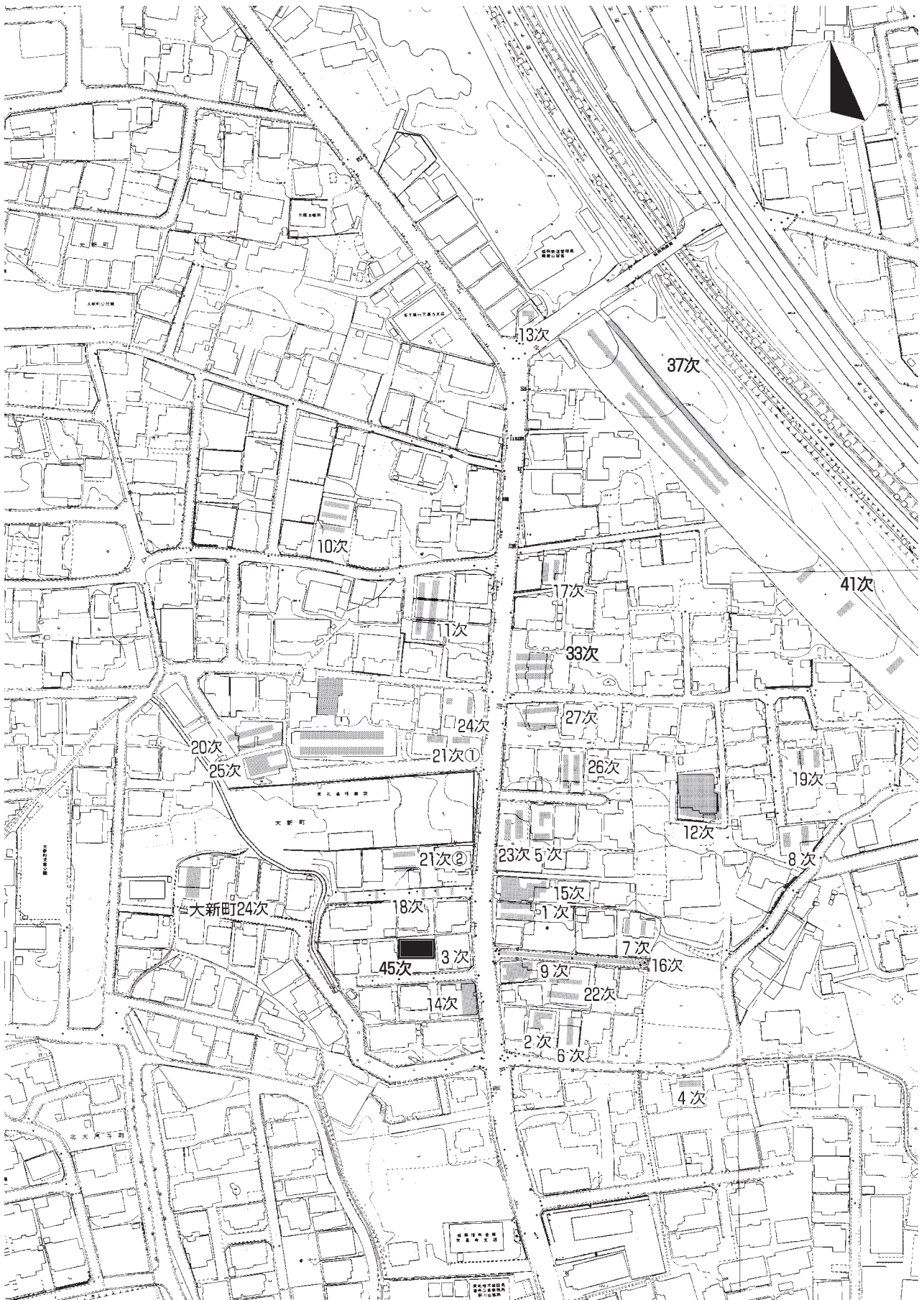
### (1) これまでの調査

過去の調査 小屋塚遺跡は1968年、岩手大学学生によって発見された遺跡である。同年に宅地造成に伴う緊急発掘調査が盛岡市教育委員会、岩手大学教育学部日本史研究室によって実施された。調査では縄文時代中期後葉の竪穴建物跡1棟、フラスコ形土坑14基が確認された。フラスコ形土坑の構築時期は中期中葉の太木8b式期と推定されている。

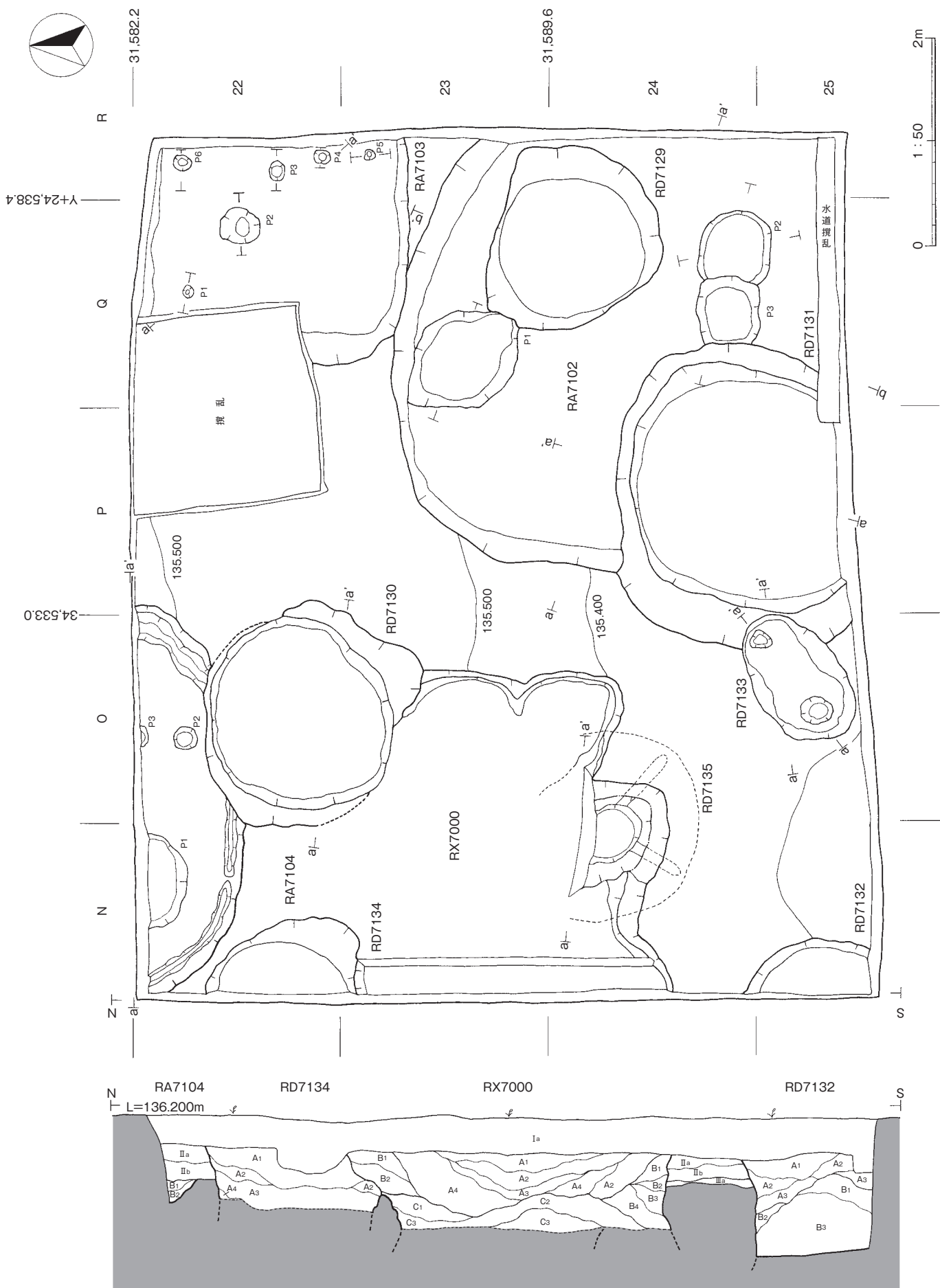
1984年度以降より、住宅建築などの工事に先立つ事前調査が、盛岡市教育委員会によって実施されるようになる。45次に及ぶ調査によって縄文時代早期から後期、奈良・平安時代の複合遺跡であることが明らかにされた。

第2表 小屋塚遺跡調査一覧

次数	所在地	調査原因	調査面積 (㎡)	期 間	検出遺構
1968	盛岡市小屋塚20-11	宅地造成	不明	1968.5.14 ~ 1968.7.31	縄文時代竪穴建物跡1、土坑14基
001	盛岡市大新町168-5	個人住宅建築	125	1984.5.9 ~ 1984.5.19	縄文中期遺物包含層
002	盛岡市大新町68-8	個人住宅建築	40	1984.6.25 ~ 1984.6.26	縄文中期遺物包含層
003	盛岡市大新町	道路改良	10	1984.6.30 ~ 1984.6.30	縄文時代中期竪穴建物跡1
004	盛岡市北天昌寺町4-23	個人住宅建築	17	1985.4.13 ~ 1985.4.16	なし
005	盛岡市大新町68-25	個人住宅建築	81	1985.5.15 ~ 1985.5.15	なし
006	盛岡市大新町168-9	個人住宅建築	21	1985.5.20 ~ 1985.5.20	なし
007	盛岡市大新町68-18	個人住宅建築	19	1985.6.4 ~ 1985.6.4	縄文時代遺物包含層
008	盛岡市大新町169-19	個人住宅建築	25	1986.4.18 ~ 1986.4.18	縄文時代遺物包含層
009	盛岡市大新町168-11	個人住宅建築	50	1986.6.2 ~ 1986.6.9	縄文時代土坑2、奈良時代竪穴建物跡1
010	盛岡市大新町1-35.1-46	個人住宅建築	52	1986.6.9 ~ 1986.6.10	縄文時代遺物包含層
011	盛岡市大新町20-3	宅地造成	137	1986.10.17 ~ 1986.10.18	なし
012	盛岡市大新町3-26	個人住宅建築	330	1987.4.28 ~ 1987.5.8	縄文時代土坑7、柱穴8
013	盛岡市南青山町243-20	店舗建築	16	1987.7.31 ~ 1987.7.31	なし
014	盛岡市大新町10-10	個人住宅建築	90	1987.8.17 ~ 1987.9.21	縄文時代竪穴建物跡1、土坑13基
015	盛岡市大新町167-14	個人住宅建築	131	1987.11.2 ~ 1987.11.27	縄文時代遺物包含層
016	盛岡市大新町168	道路改良	116	1987.10.8 ~ 1987.10.21	縄文時代土坑3
017	盛岡市前九年三丁目24-42	個人住宅建築	23	1989.11.24 ~ 1989.11.28	なし
018	盛岡市大新町20-11	私道改良	12	1990.9.25 ~ 1990.9.25	なし
019	盛岡市大新町169-17	個人住宅建築	40	1991.5.18 ~ 1991.5.18	なし
020	盛岡市大新町19-7	個人住宅建築	72	1991.9.17 ~ 1991.9.18	平安時代竪穴建物跡1棟
021	盛岡市大新町20-42	事務所改築	80	1992.12.4 ~ 1992.12.4	なし
022	盛岡市大新町168-14	個人住宅建築	48	1993.6.7 ~ 1993.6.7	なし
023	盛岡市大新町168-14	個人住宅建築	38	1993.6.7 ~ 1993.6.7	なし
024	盛岡市大新町20-1	個人住宅建築	20	1993.6.7 ~ 1993.6.7	なし
025	盛岡市大新町20-40	個人住宅建築	53	1994.5.25 ~ 1994.6.6	縄文時代土坑3、焼土1、柱穴18
026	盛岡市大新町169-4	個人住宅建築	40	1994.10.12 ~ 1994.10.12	なし
027	盛岡市大新町168-8	個人住宅建築	45	1994.10.12 ~ 1994.10.12	なし
028	盛岡市大新町20-36	宅地造成	2414	1996.4.4 ~ 1996.6.2	縄文時代土坑75、焼土1、平安時代竪穴建物跡1
029	盛岡市大新町162-1	個人住宅建築	466	1996.7.15 ~ 1996.8.5	平安時代竪穴建物跡3、溝跡2
030	盛岡市大新町203-14	個人住宅建築	214	1996.6.10 ~ 1996.6.21	平安時代竪穴建物跡2、柱穴15
031	盛岡市大新町203-7	個人住宅建築	80	1996.8.19 ~ 1996.8.19	遺物僅少
032	盛岡市大新町6-22	個人住宅建築	113	1996.11.1 ~ 1996.11.1	遺物僅少
033	盛岡市大新町101-11外	個人住宅建築	108	1996.12.9 ~ 1996.12.9	なし
034	盛岡市大新町169-13.169-14	個人住宅建築	57	1997.4.28 ~ 1997.4.28	なし
035	盛岡市大新町10-8	個人住宅建築	156	2000.4.24 ~ 2000.5.17	縄文時代竪穴建物跡3、土坑9
036	盛岡市大新町132-11.132-37	個人住宅建築	200	2000.9.11 ~ 2000.9.11	なし
037	盛岡市大新町101-1	宅地造成	537	2009.10.19 ~ 2009.10.19	なし
038	盛岡市大新町(166)2-3	個人住宅建築	50	2011.1.27 ~ 2011.1.27	なし
039	盛岡市大新町167-11外	個人住宅建築	13	2012.8.9 ~ 2012.8.9	なし
040	盛岡市大新町20-45の一部、	個人住宅建築	170	2013.5.13 ~ 2013.5.13	縄文時代土坑2
041	盛岡市大新町101-1	宅地造成	324	2015.11.18 ~ 2015.11.19	なし
042	盛岡市大新町20-22	個人住宅建築	52	2016.6.23 ~ 2016.6.24	縄文中期遺物包含層
043	盛岡市大新町168-7	個人住宅建築	21	2018.3.20 ~ 2018.3.20	なし
044	盛岡市大新町10-8	個人住宅建築	27	2020.8.4 ~ 2020.8.4	縄文時代土坑10、柱穴1
045	盛岡市大新町10-8	個人住宅建築	65	2021.4.19 ~ 2021.5.31	縄文時代竪穴建物跡3、土坑10



第3図 小屋塚遺跡全体図



第4図 小屋塚遺跡第45次調査全体図

## (2) 令和3年度の調査

令和3年度の小屋塚遺跡の発掘調査は、国庫補助事業として1件の個人住宅新築に係る事前本調査(45次)を実施した。

### 第45次

第45次調査区は小屋塚遺跡の南端部付近に位置し、部分的に1968年の発掘調査範囲に含まれる可能性がある。しかし、1968年の調査は試掘トレンチで確認された遺構箇所のみを拡張させた調査であるため、未確認の遺構があるものと想定されていた。調査期間は令和3年4月19日から5月31日まで行い、調査面積は65㎡である。なお、発掘調査は新築される住宅基礎及び下水管埋設など掘削が及ぶ現地表面より約45～60cmまでの深さとした。そのため、フラスコ形土坑など深さ1m以上の遺構については平面形(検出)、部分的な埋土堆積状況の確認に止めた。

検出された遺構は、縄文時代前期の竪穴建物跡2棟(RA7103・7104)、中期前葉の竪穴建物跡1棟(RA7102)、縄文時代中期中葉の土坑8基、粘土採掘坑と思われる土坑(RX7000)1基である。遺物は縄文時代早期末葉から中期後葉にかけての土器・石器である。

## (3) 基本層位

### 堆積状況

第45次調査区は北から南に延びる滝沢台地南縁に位置する。西縁には埋没谷が入り、南の斜面下には沖積地が形成される。

### 基本土層

I層… I a層は耕作土で、黒褐色土・暗褐色土による混合土。軟らかく締まりのない層である。現代の生活用具等が混入する。

II層… a・b層の2層に細別され、全体的にやや硬く締まる黒褐色土を主体とする層である。

II a層は黒～黒褐色を主体に、粒～塊状の黄褐色土を含む。微細な炭化物片が混入する。縄文時代後期以降の遺物が主体的に出土する。

II b層は黒褐色土を主体に塊～粒状の褐色火山灰・スコリア粒を含む。やや硬く締まり、土粒が細かく粉状に近い部分もある。縄文時代前期の遺構はII b層より掘り込まれる。

III層… a・b層の2層に細別され、にぶい明黄褐色土・暗褐色土を主体にスコリア粒を多量に含む層である。III a層は塊状の明黄褐色土と暗褐色土を主体に、多量のスコリア粒を含む。III b層は粘質で硬く締まり、今回の調査では部分的に確認したのみである。

## (4) 縄文時代の遺構と遺物

### RA7102 竪穴建物跡 (第4・5図)

位置 調査区南東部 検出面 III a層上面 掘込面 不明 平面形 隅丸方形?

規模 南北上端5.15m・下端4.90m以上、東西上端2.70m・下端2.50m以上 深さ0.25m

床面 ほぼ平坦 重複関係 RD7129・7131土坑に切られる。

埋土 A・B層に大別され、A層は3層・B層は4層に細別される。

A層ー A<sub>1</sub>層は黒褐色土を主体に、塊～粒状の褐色火山灰、スコリア粒、焼土粒、炭化物片を少量含む。

A<sub>2</sub>層は黒褐色土を主体に、塊～粒状の褐色火山灰、スコリア粒、焼土粒、炭化物片を少量含む。全体的に硬く締まる。

A<sub>3</sub>層は黒褐色土と塊状の暗褐色土が混合する層で、塊～粒状の褐色火山灰、スコリア粒、



焼土粒、炭化物片を含む。

B層－ B<sub>1</sub>層は暗褐色土を主体に粒～塊状黒褐色土・黄褐色土を含む層。

B<sub>2</sub>層は暗褐色土を主体に塊状のにぶい黄褐色土を含む層。

B<sub>3</sub>・4層はにぶい黄褐色土と粒から塊状の暗褐色土が混合する層である。B<sub>4</sub>層はにぶい黄褐色土がB<sub>3</sub>層より多く含まれる。

**遺物出土状況** 竪穴建物跡の周囲の遺物包含層から流入したものと思われる前期後葉（第6図1～7・9）の土器片、第9図1～9の石器が出土した。

**出土土器（第6図1～7）** 1～6は前期後葉の深鉢形土器片で、1・2は口縁部、3～6は体部片である。7・9は中期前葉の深鉢片である。

1・4は単節斜縄文を横位に施す深鉢で、1の口唇部には刻目が施される。2は縦位の撚糸文、3・5は網目状撚糸文、6は木目状撚糸文が施される深鉢である。7は単節斜縄文を縦位に施す深鉢である。9は交互刺突を施した隆線を2条垂下させる深鉢口縁部で、隆線に沿わせるように棘状の沈線を施す。

**出土石器（第9図1～9）** 1は頁岩製の石槍と思われる石器である。2・5は頁岩製の無茎石鏃、4は有茎石鏃である。3・6は頁岩製の削器で、3の背面左側縁には連続する押圧剥離が施される。7・8は頁岩製の搔器で背面のみに整形剥離が施される。9は扁平礫両面に磨面を持つ凝灰岩製礫器で、縁辺や磨面に敲打痕が残る。

**時期** 縄文時代中期？

#### RA7103竪穴建物跡（第4・5図）

<b>位置</b>	調査区北東部	<b>検出面</b>	Ⅲa層上面	<b>掘込面</b>	不明	<b>平面形</b>	隅丸方形
<b>規模</b>	南北上端3.0m・下端2.85m以上、東西上端2.85m・下端2.70m以上						深さ0.41m
<b>床面</b>	ほぼ平坦	<b>重複関係</b>	RA7102竪穴建物跡に切られる。				
<b>柱穴</b>	P1～6が検出され、各ピットの深さは次の通りである。P1 -0.11m、P2 -0.16m、P3 -0.11m、P4 -0.11m、P5 -0.05m、P6 -0.27m。						
<b>埋土</b>	A・B層に大別され、A層は3層・B層は2層に細別される。						

A層－ A<sub>1</sub>層は暗褐色土を主体に、塊～粒状の黒褐色土、褐色火山灰、スコリア粒、焼土粒、炭化物片を少量含む。

A<sub>2</sub>層は暗褐色土を主体に、塊～粒状の褐色火山灰、スコリア粒、焼土粒、炭化物片を少量含む。全体的に硬く締まる。

A<sub>3</sub>層は暗褐色土と塊状の黄褐色土が混合する層で、塊～粒状の褐色火山灰、スコリア粒、焼土粒、炭化物片を含む。

B層－ B<sub>1</sub>層は黒褐色土を主体に粒～塊状の褐色土・黄褐色土を含む層。硬く締まる。

B<sub>2</sub>層は暗褐色土を主体に塊状のにぶい黄褐色土を含む層。硬く締まる。

**遺物出土状況** 周囲の遺物包含層から流入したものと思われる前期初頭（第6図10～12）、前期後葉（第6図8・13）の土器片、第9図10の石器が出土した。

**出土土器（第6図8・10～13）** 10～12は単節斜縄文が施される前期初頭の深鉢形土器片で、10は口縁部、11・12は体部片である。全て多量の繊維を含む。8は結束縄文が施される深鉢体部片、13は網目

状撚糸文が施される深鉢口縁部片である。

**出土石器 (第9図10)** 10は頁岩製の削器と思われる石器である。

**時期** 縄文時代前期

#### RA7104 竪穴建物跡 (第4・5図)

**位置** 調査区北西部 **検出面** III a層上面 **掘込面** II b層下位 **平面形** 楕円形  
**規模** 南北上端5.15m・下端4.90m以上、東西上端2.70m・下端2.50m以上 深さ0.25m  
**床面** ほぼ平坦 **重複関係** RD7129・7131土坑に切られる。  
**埋土** A・B・C層に大別され、B・C層は2層に細別される。

A層－ A<sub>1</sub>層は暗褐色土を主体に、塊～粒状の褐色火山灰、スコリア粒、焼土粒、炭化物片を少量含む硬く締まる層。

B層－ B<sub>1</sub>層は暗褐色土を主体に粒～塊状の黄褐色土を含む層。B<sub>2</sub>層はスコリア粒をB<sub>1</sub>層より多く含む。

C層－ C<sub>1</sub>層は壁面に露出する褐色火山灰が崩壊、遺構内部に流入した土層で、壁面下部から床面にかけて浅く堆積する。P2・3の埋土はC<sub>1</sub>層と同様のものである。C<sub>2</sub>層はC<sub>1</sub>層に近いが、1～3mm大のスコリア粒が多量に混入する。

**遺物出土状況** 竪穴建物跡の周囲の遺物包含層から流入したと思われる前期後葉 (第6図14～22) の土器片が出土した。

**出土石器 (第6図14～22)** 14～16は前期後葉の深鉢形土器体部片で、器面には縦位の撚糸文が施される。

16には沈線による幾何学文が描かれる。17・19は不規則に単節斜縄文を施した深鉢で、17の口唇部には刻目が施される。18・20～22は深鉢底部で、全て底面が張り出す形状である。

**時期** 縄文時代前期後葉

#### RD7129土坑 (第4・5図)

**位置** 調査区東部 **検出面** RA7102床面 **掘込面** 不明 **平面形** 円形  
**規模** 東西上端1.90m・下端1.40m以上 深さ0.26m以上  
**底面** 不明 (未調査) **重複関係** RA7102竪穴建物跡を切る。  
**埋土** A・B層に大別され、A層は5層・B層は1層以上に細別される (B<sub>1</sub>層以下は未調査)。

A層－ A<sub>1</sub>～5層は黒褐色土を主体に、塊～粒状の暗褐色土、スコリア粒、焼土粒、炭化物片の含有量により5層に細分した。

B層－ B<sub>1</sub>層は暗褐色土を主体に粒～塊状黒褐色土・黄褐色土を含む。

**遺物出土状況** 周囲から流入したと思われる中期中葉 (第6図23・24) の土器片が出土した。

**出土石器 (第6図23・24)** 23は中期中葉の深鉢口縁部片で、吊手状の突起が口唇部から口縁部上部にかけて貼り付けられる。突起を起点に原体圧痕が弧状に連続して施される。24は単節斜縄文が施される深鉢体部片である。

**時期** 縄文時代中期中葉

#### RD7130土坑（第4・5図）

位置 調査区北西部 検出面 地山（分火山灰層下部） 掘込面 不明  
平面形 円形 規模 東西上端2.30m・下端1.75m以上 深さ0.72m以上  
底面 不明（未調査） 重複関係 RA7104・RX7000を切る。  
埋土 RD7129土坑と同様の土層堆積で、A・B層に大別され、A層は5層・B層は1層以上に

細別される（B1層以下は未調査）。

A層－ A<sub>1</sub>～5層は黒褐色土を主体に、塊～粒状の暗褐色土、スコリア粒、焼土粒、炭化物片の含有量により5層に細分した。

B層－ B<sub>1</sub>層は暗褐色土を主体に粒～塊状黒褐色土・黄褐色土を含む。

遺物出土状況 周囲から流入したと思われる前期初頭から後葉にかけて（第7図25～36）の土器片が出土した。

出土土器（第7図25～36） 25は前期後葉の深鉢口縁部片、26～33は深鉢体部片である。器面には縦位の撚糸文が施される。34・35は胎土に繊維を多量に含む深鉢体部片で、器面には単節斜縄文が施される。36はミニチュア土器で、カーブが緩やかな椀状を呈す。

出土石器（第10図11・12） 11は頁岩製の有脚石鏃で、先端部は細く尖る。扱りは僅かに内湾気味に剥離調整される。12は頁岩製の両極石器で、長軸両端に打撃痕が観察される。

時期 縄文時代中期中葉

#### RD7131土坑（第4・5図）

位置 調査区南部 検出面 地山（分火山灰層下部） 掘込面 不明  
平面形 円形 規模 東西上端2.85m・下端2.32m以上 深さ0.43m以上  
底面 不明（未調査） 重複関係 RA7102を切る。  
埋土 A層以下は精査していないが、A層は4層に細別される。

A層－ A<sub>1</sub>～5層は黒褐色土を主体に、塊～粒状の暗褐色土、スコリア粒、焼土粒、炭化物片の含有量により5層に細分した。

遺物出土状況 周囲から流入したと思われる中期前葉から後葉にかけて（第7図37～43）の土器片が出土した。

出土土器（第7図37～43） 37は弁状突起を持つ深鉢口縁部片で、突起下に沈線による渦巻文、有棘懸垂文が施される。38は隆帯を口縁下に巡らす深鉢で、隆帯の上下に沈線による弧文が連続して施される。39～41は深鉢口縁部片で、39・41には沈線によるU字文、40には隆沈線による小渦巻文が口縁下に施される。42は口縁部が大きく外反する深鉢で、器面には複節縄文が縦位に施される。43は深鉢下半から底部にかけて残存するもので、器面には複節縄文が縦位に施される。

時期 縄文時代中期後葉

#### RD7132土坑（第4図）

位置 調査区南西部 検出面 地山（分火山灰層下部） 掘込面 不明  
平面形 円形 重複関係 RA7104・RX7000を切る。  
規模 南北上端1.05m・下端0.55m以上 深さ0.98m以上 底面 不明（未調査）

- 埋 土** A・B層に大別され、A層は4層・B層は3層以上に細別される（B<sub>3</sub>層以下は未調査）。  
 A層－ A<sub>1</sub>～4層は黒褐色土を主体に、塊～粒状の暗褐色土、スコリア粒、焼土粒、炭化物片の含有量により3層に細分した。  
 B層－ B<sub>1</sub>層は暗褐色土を主体に粒～塊状黒褐色土・黄褐色土を含む。B<sub>2</sub>層は暗褐色土と褐色火山灰土による混合土。軟質で締まりのない層。B<sub>3</sub>層は粘質の黄褐色土を主体に、小塊状の黒褐色土を少量含む層。硬く締まる。
- 遺 物** なし **時 期** 縄文時代中期後葉

#### RD7133土坑（第4・5図）

- 位 置** 調査区南部 **検出面** 地山（分火山灰層下部） **掘込面** 不明  
**平面形** 楕円形 **重複関係** RD7131を切る。  
**規 模** 北東－南西上端1.45m・下端1.21m、北西－南東上端0.85m・下端0.65m、深さ0.27m以上  
**底 面** 長軸両端に浅い掘込がある。  
**埋 土** A層は2層に細別され、A<sub>1</sub>層は黒褐色土を主体に僅かな炭化物片とスコリア粒を含む。A<sub>2</sub>層はA<sub>1</sub>層と同様の黒褐色土を主体とする土層に塊状の暗褐色土を含む。  
**遺 物** なし **時 期** 不明

#### RD7134土坑（第4・5図）

- 位 置** 調査区北西部 **検出面** 地山（分火山灰層下部） **掘込面** 不明  
**平面形** 円形？ **規 模** 南北上端1.45m・下端1.25m以上 深さ0.53m以上  
**底 面** 不明（未調査） **重複関係** RX7000に接するが新旧不明  
**埋 土** A層以下は精査していないが、A層は3層に細別される。  
 A層－ A<sub>1</sub>～3層は黒褐色土を主体に、塊～粒状の粘質黄褐色土、スコリア粒、焼土粒、炭化物片を含む層で、混入土・物の含有量により3層に細分した。
- 出土土器**（第7図44・45） 44は底部を欠く浅鉢で、口縁部には原体圧痕による弧文が施される。45は口縁部下に横位平行の原体圧痕を2条巡らす浅鉢である。
- 時 期** 縄文時代中期中葉？

#### RD7135土坑（第4・5図）

- 位 置** 調査区南西部 **検出面** 地山（分火山灰層下部） **掘込面** 不明  
**平面形** 円形（フラスコ形） **規 模** 東西上端1.08m・下端1.81m、深さ1.88m以上  
**重複関係** RX7000を切る。 **底 面** 底面中央に浅い円形ピットと溝が掘り込まれる。  
**埋 土** A・B・C層に大別され、A・C層は2層、B層は3層に細別される。  
 A層－ A<sub>1</sub>層は黒褐色土を主体に、塊～粒状の暗褐色土、スコリア粒、焼土粒、炭化物片を含み、A<sub>2</sub>層は黒褐色土と少量のスコリア粒を含む。  
 B層－ B<sub>1</sub>層は粘質黄褐色土を主体とする層で、B<sub>2</sub>層は黒褐色土、B<sub>3</sub>層はB<sub>1</sub>層と同様の粘質黄褐色土を主体とする。  
 C層－ 黒褐色土を主体とする層で、C<sub>2</sub>層は黒褐色土と粘質黄褐色土が混合する層である。



遺物出土状況 図示していないが、周囲から流入したものと思われる中期前葉から後葉にかけての土器小片が出土した。

時 期 縄文時代中期後葉

#### RX7000土取跡（第4図）

位 置 調査区北西部 検出面 地山（分火山灰層下部） 掘込面 不明

平面形 不整形 底面 不明（未調査）

規 模 南北上端4.82m・下端4.32m以上・東西上端3.19m以上・下端3.10m以上、深さ0.82m以上

重複関係 RA7104を切り、RD7130・7134・7135土坑に切られる。

埋 土 A・B層は4層、C層は3層に細別される。

A層－ A<sub>1</sub>～4層は黒褐色土を主体に、塊～粒状の暗褐色土、スコリア粒、焼土粒、炭化物片を含む層で、混合する暗褐色土の量で4層に細分した。

B層－ 壁面の崩壊土を主体とする層で、地山となる砂質火山灰土が層状に堆積したものである。

C層－ 灰白色・黄褐色の粘質土を主体とする層で、下位になると灰白色の粘質土が主体的になり、C<sub>3</sub>層では大きな塊状灰白色粘質土と黄褐色粘質土が混合した状態である。

遺物出土状況 周囲から流入したものと思われる中期前葉から後葉にかけて（第7図46～第8図60）の土器片、石器（第10図13～15）が出土した。

出土土器（第7図46～第8図60） 46は口縁下に3条の横位平行沈線を施す深鉢である。47・48は胎土に繊維を含む深鉢体部片で、器面には原体圧痕・縄文が施される。49～52は器面に撚糸文が施される深鉢口縁部片である。53～57は器面に撚糸文が施される深鉢体部片で、54の内面には粗いナデによる調整痕が見られる。58は底部を欠く浅鉢で、原体圧痕による横位平行文・弧文が施される。59は単節斜縄文が縦位に施される深鉢体部片、60は結節縄文を縦位に施す深鉢体部片である。

出土石器（第10図13～15） 13は頁岩製の縦長剥片で、下端部に細かい剥離又は使用による刃こぼれが観察される。14は凝灰岩製の打製石斧で、両面に自然礫皮面を残す。15は凝灰岩製の敲石と思われる礫器で、敲打による剥離痕が縁辺に見られる。

時 期 縄文時代中期後葉

### （5） 遺構外の遺物

小屋塚遺跡第45次調査区は、昭和40年代以降の造成により表土が失われている状況であった。僅かに調査区北西端で遺物包含層と思われる暗褐色土層（II a・b層）を確認したが面積が狭く確実なものではない。

出土土器（第8図61～70） 61～65は胎土に繊維を含む深鉢体部片で、61～63・65には単節斜縄文、64には横位の不整撚糸文が施される。66～68は撚糸文が施される深鉢体部片である。69は隆沈線による区画文が施される深鉢口縁部片である。70は土器片を円形に打ち欠いた円盤状の製品である。

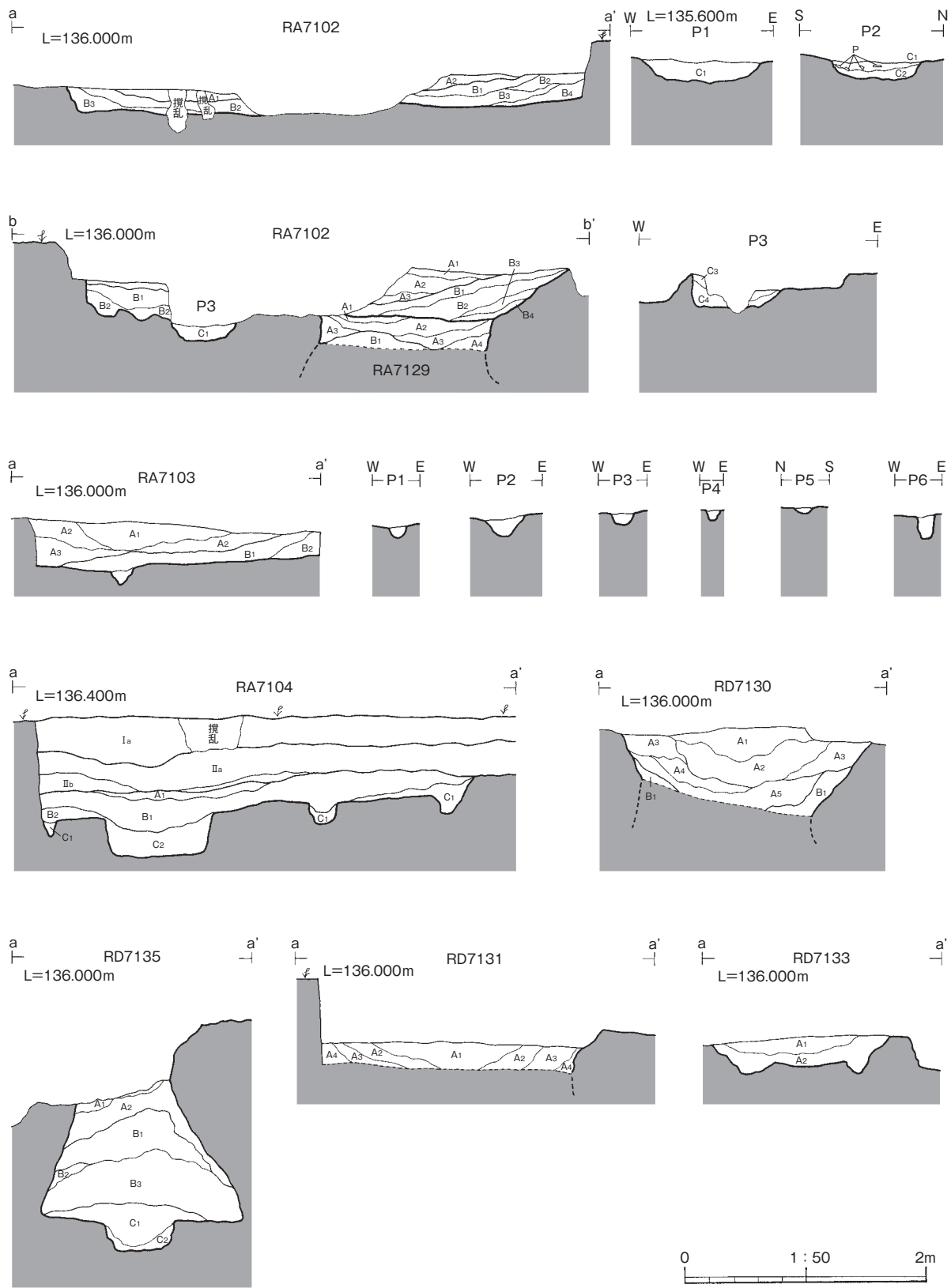
出土石器（第10図16） 16は凝灰岩製の敲打磨石で、長辺下端に磨面を持つ。

### 3 調査のまとめ

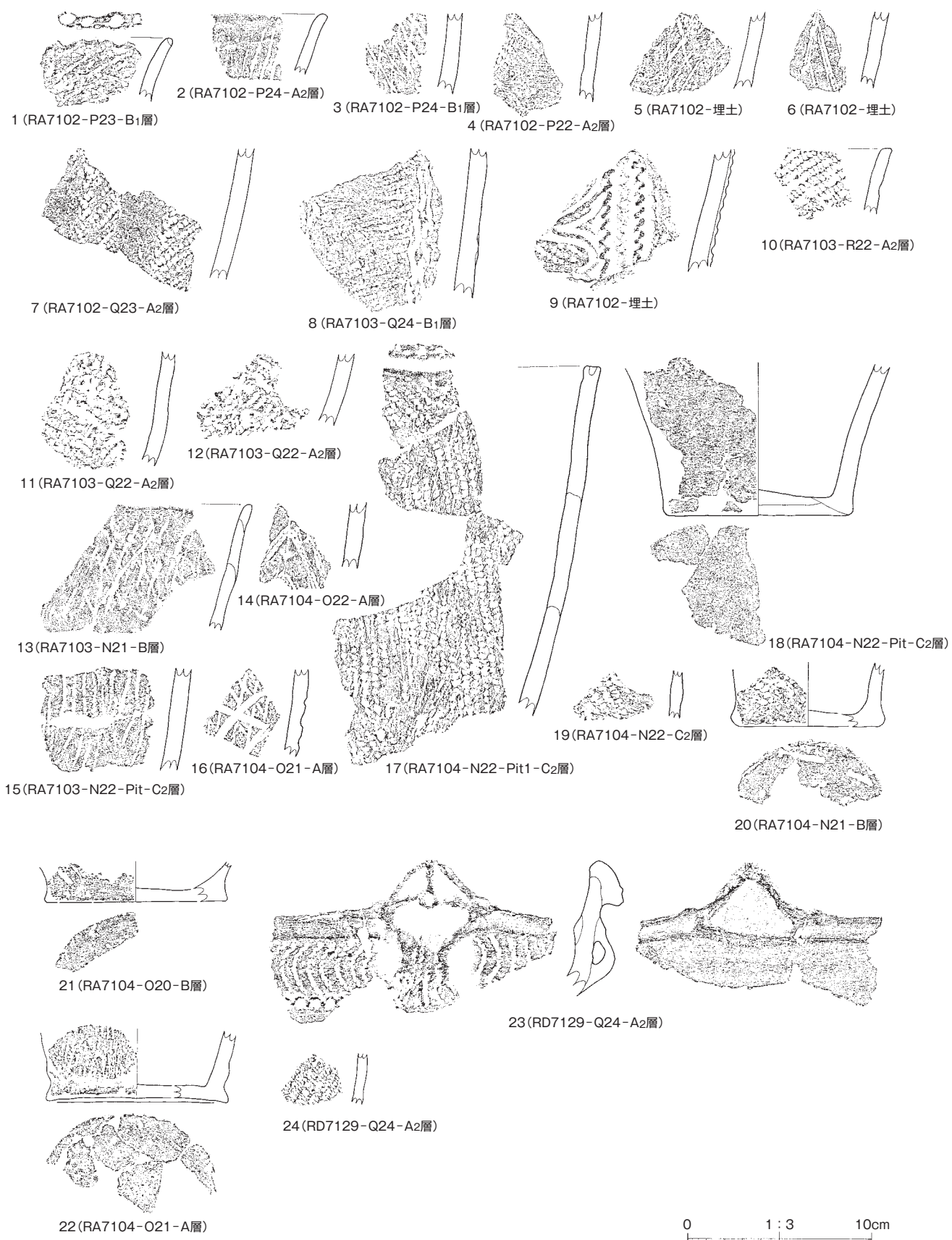
小屋塚遺跡の発掘調査は、これまでに45次に渡る発掘調査が実施されているが、遺構・遺物が確認されているのは遺跡南辺、沖積地を見下ろす滝沢台地縁辺に集中する。第45次発掘調査においてもその傾向が見られ、南に接する第14次調査区でも13基ものフラスコ形土坑が確認されている。

遺構の構築時期は、フラスコ形土坑埋土より縄文時代中期中葉の大木8a～b、後葉の大木9式土器が出土することから、概ね縄文時代中期中葉から後葉にかけて構築されたものであることが推測される。構築時期は小屋塚遺跡の西に接する縄文時代中期の集落遺跡として知られる大館町・大新町遺跡と合致することから、大館町・大新町遺跡集落に付随する貯蔵穴地区として見る事が出来よう。

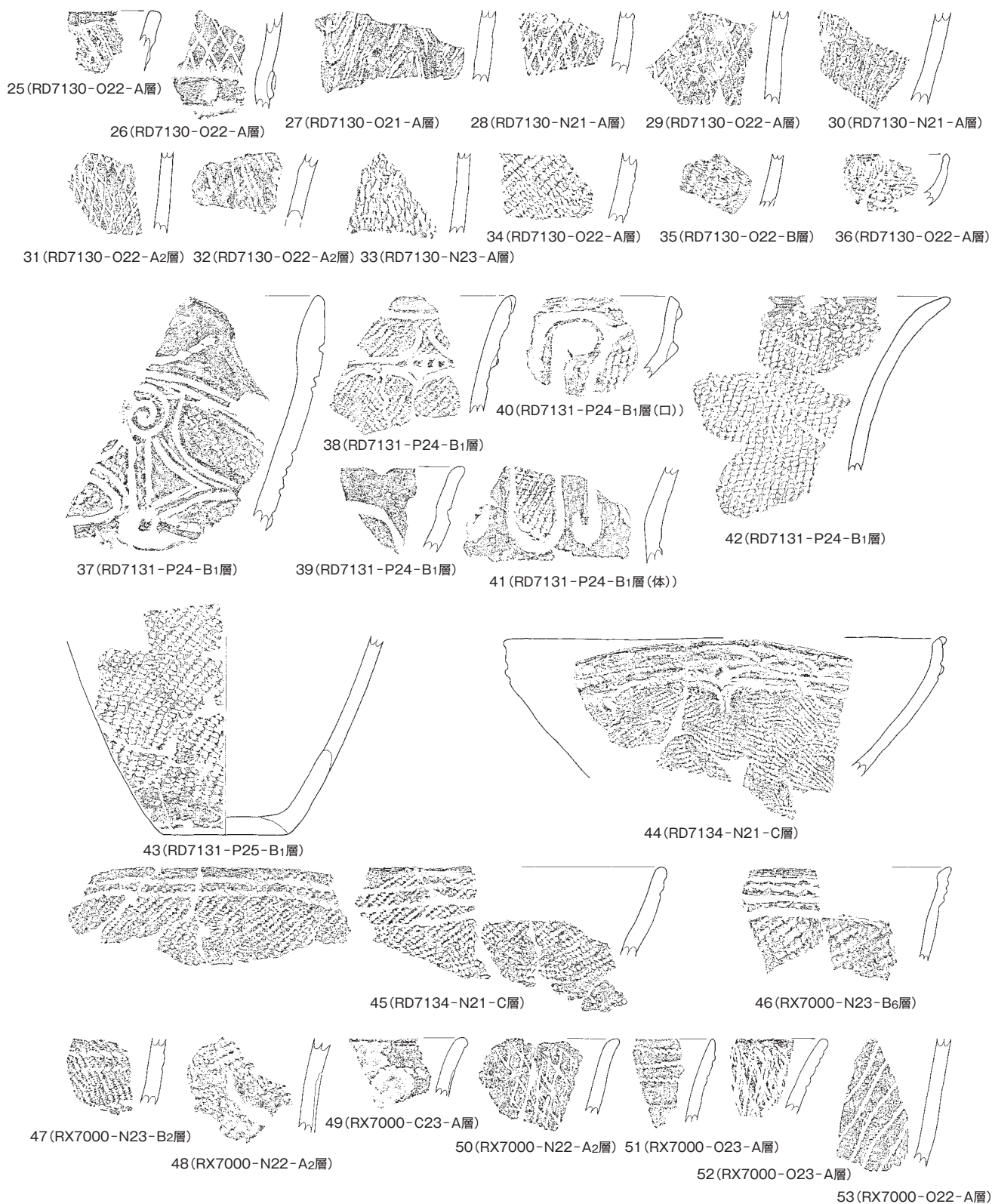
今回の第45次調査は狭い面積でありながら、高密度で土坑が構築されている場所であることが明らかになった。西に接する大館町・大新町遺跡の竪穴建物群、小屋塚遺跡の貯蔵穴群は縄文時代の土地利用を考える上で重要な知見であり、縄文時代の生活を知る上で重要な情報となるものと思われる。



第5图 RA7102~7104 竖穴建物迹、RD7130·7131·7133·7135 土坑断面图

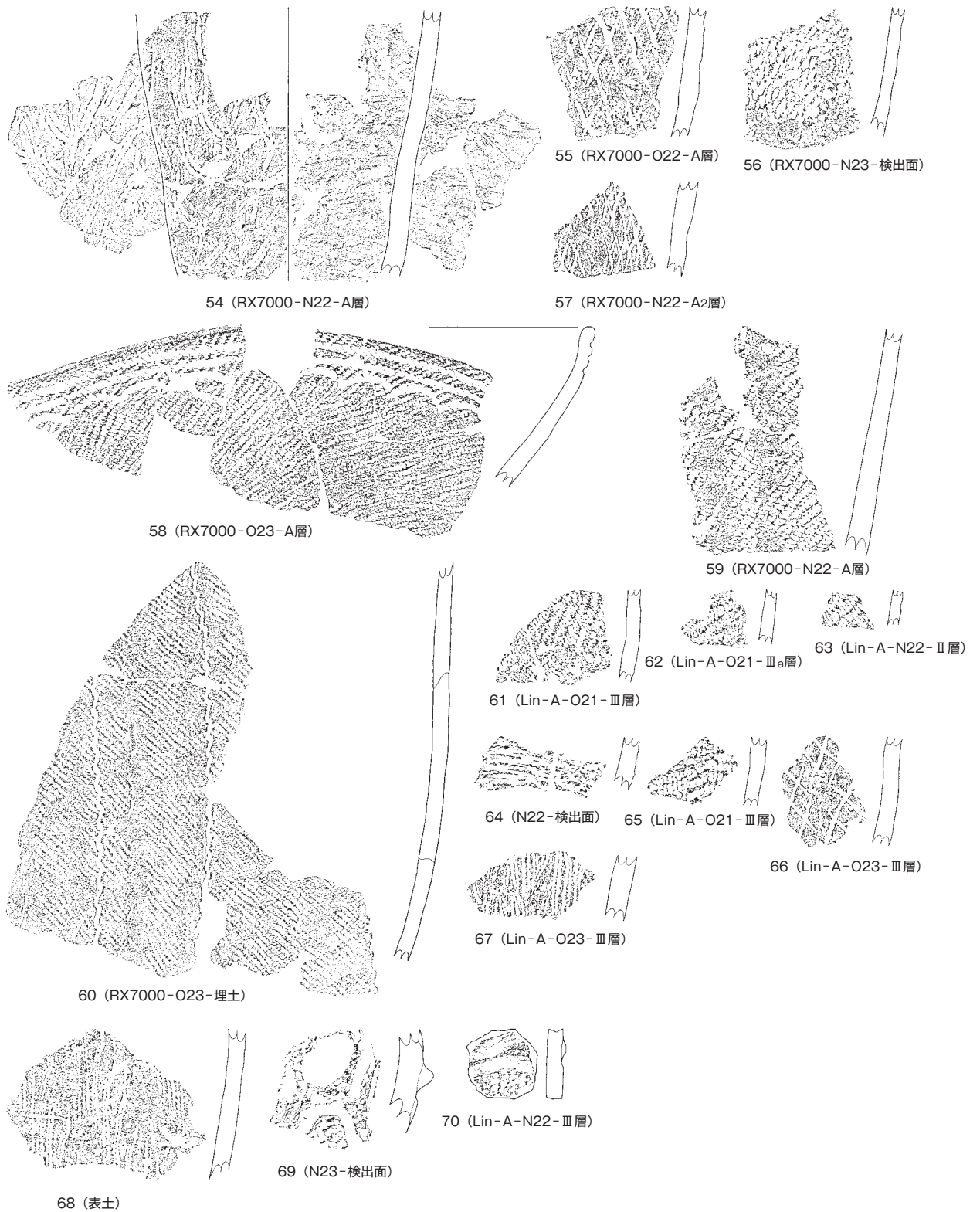


第6図 RA7102~7104 竪穴建物跡出土土器、RD7129 土坑出土土器

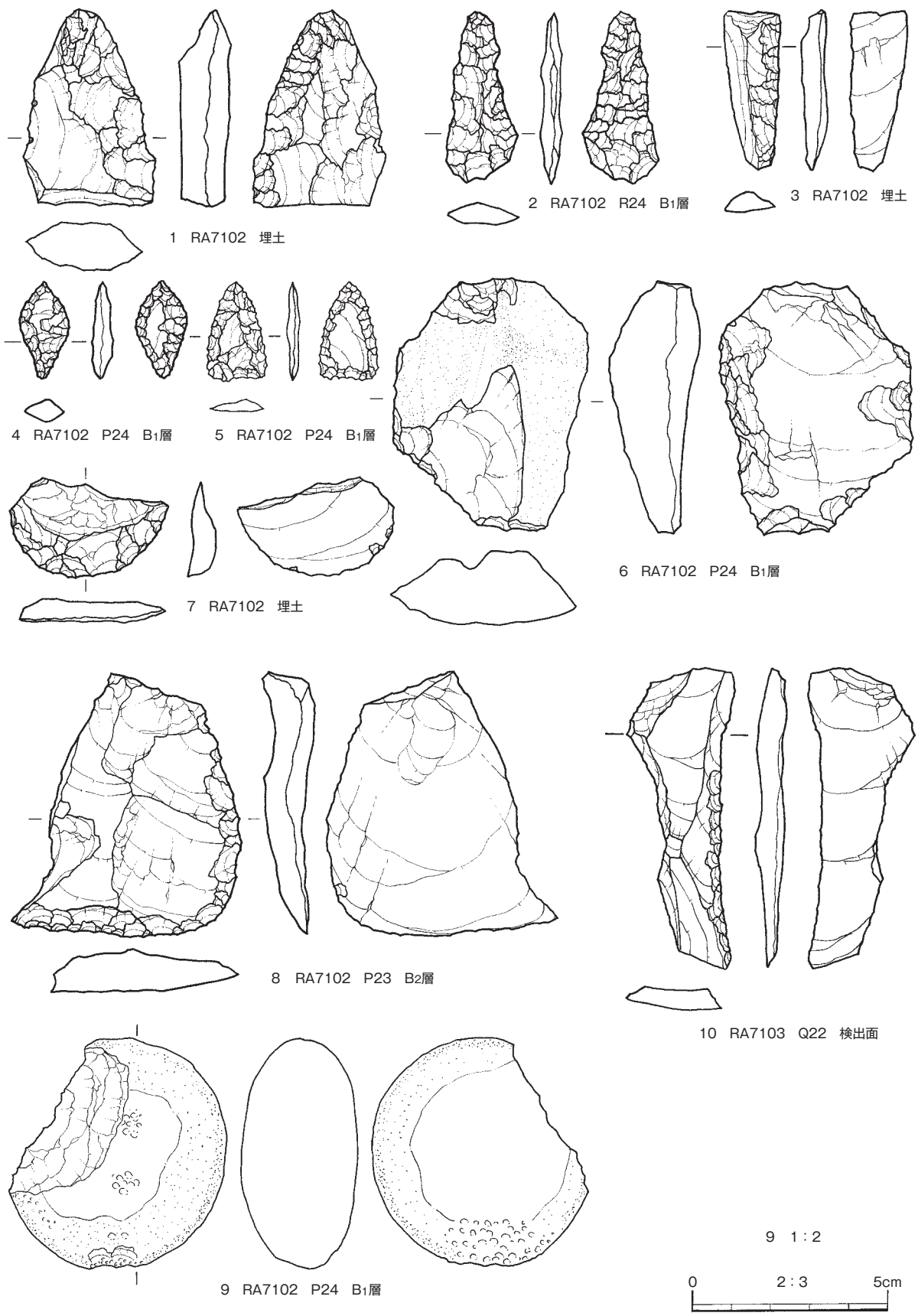


第7図 RD7130・7131・7134 土坑、RX7000 土取跡出土土器

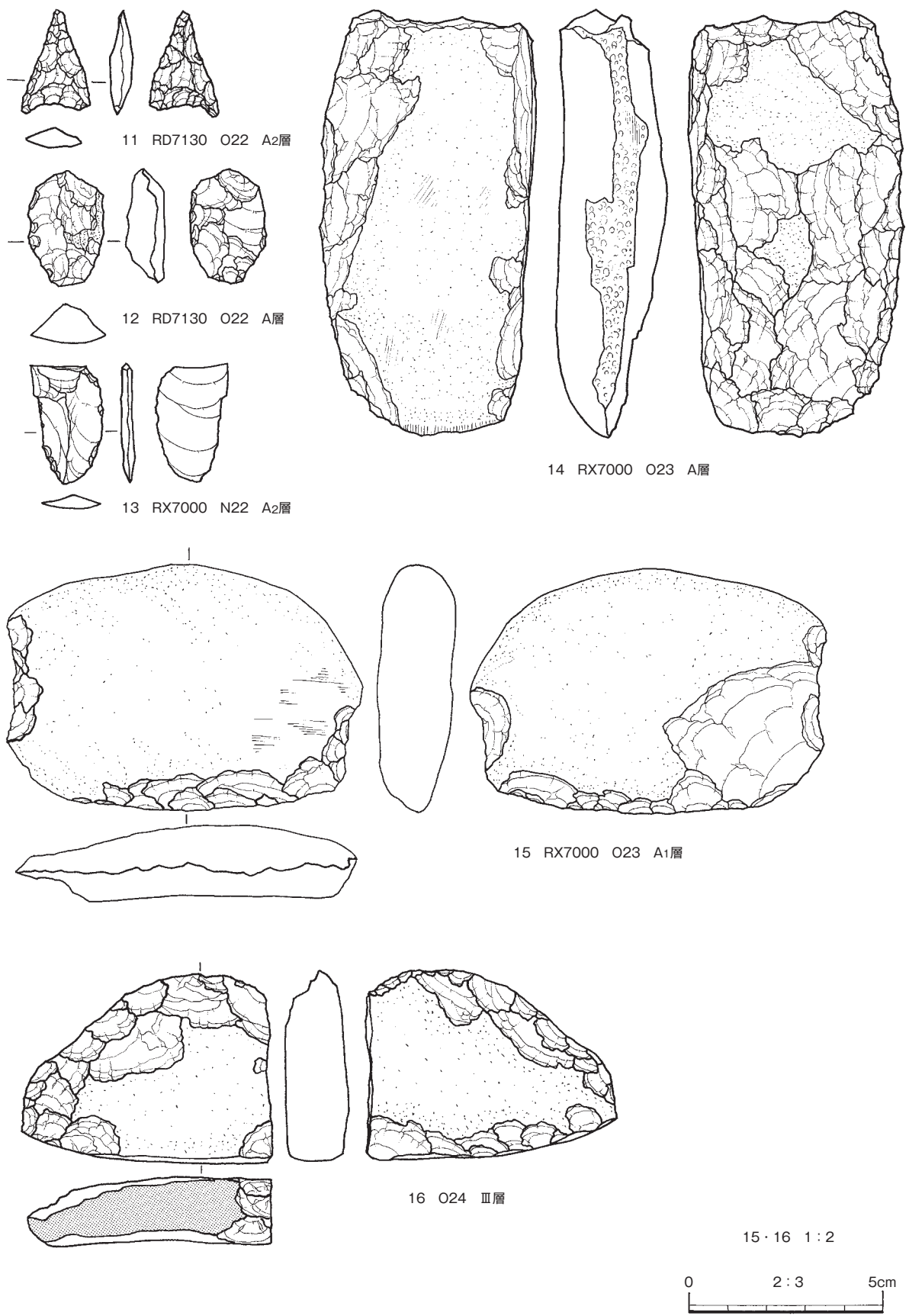




第8図 RX7000 土取跡、遺物包含層出土土器



第9図 小屋塚遺跡第45次調査出土石器 (1)



第10図 小屋塚遺跡第45次調査出土石器 (2)





### Ⅲ 里館遺跡（第68次調査）

#### 1 遺跡の環境

##### (1) 遺跡の概要

**遺跡の位置** 里館遺跡は、盛岡市街地より約3kmの天昌寺町地内に所在する（第11図）。かつては、水田や畑などの農地が主体を占めていたが、現在では宅地化が進んでおり、その姿はうかがえない。遺跡の範囲は、南北約250～380m、東西約650mと推定され、標高は129～132m前後である。（第12図）

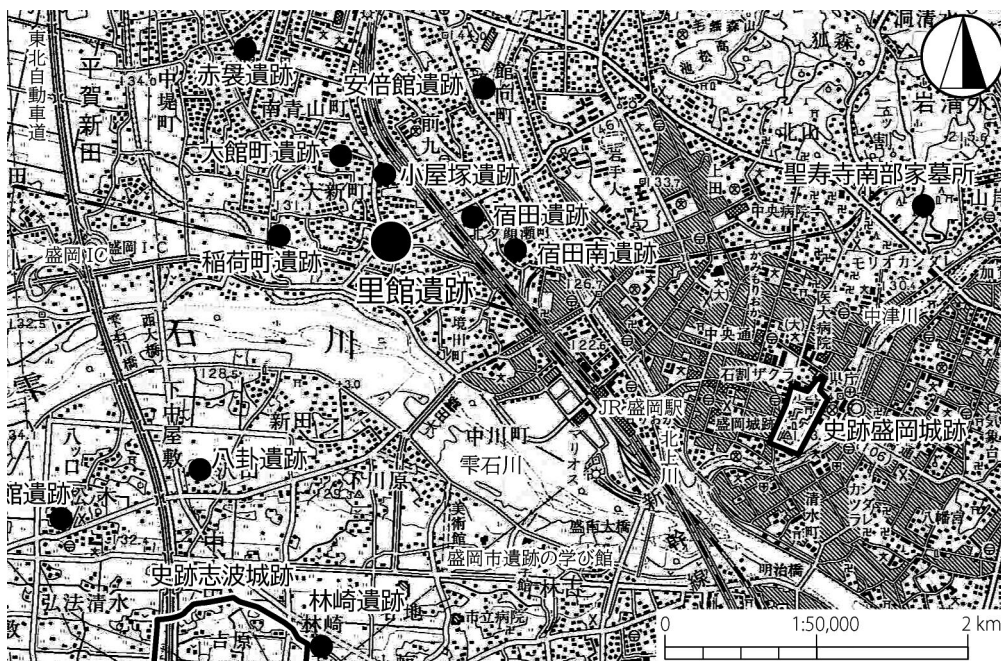
**地形・地質** 里館遺跡は、北上川の西岸、雫石川の北岸の低位段丘の南端に位置する。この低位段丘は、本遺跡から北西約19kmの岩手山（標高2,038m）の火山噴出物で形成された火山灰砂台地（滝沢台地）であり、岩手山麓の滝沢市滝沢柳沢付近から、盛岡市青山町・大館町・大新町・前九年付近まで張り出している。この段丘は、東は北上川、南は雫石川によって形成された段丘崖によって区画されている。この段丘は、いわゆる自然堤防であり、縄文時代の土器片を含む黒色土層を基底とし、その上層に砂礫、シルト、粘土層、表土によって覆われている。

##### (2) 歴史的環境

**周辺の遺跡** 里館遺跡の位置する段丘の縁辺には、縄文時代～平安時代にかけての集落遺跡が多く分布する。

**縄文時代** 本遺跡の北に位置する大新町遺跡、大館町遺跡からは、縄文時代草創期の爪形文土器、大新町遺跡では早期の押型文や貝殻文土器、大館堤遺跡、館坂遺跡、前九年遺跡、宿田遺跡からも早期の土器が出土している。大館町遺跡は、中期の大規模集落である（岩手県指定史跡）。

**弥生～古墳時代** 弥生～古墳時代は、遺物は散見されるが、明確な遺構はほとんど確認されていない。安倍



第11図 里館遺跡の位置（1：50,000）

館遺跡では、弥生時代末期の赤穴式土器、後北 C2-D 式の土器が少量出土している。宿田遺跡では、北大 I 式や南小泉式併行の土師器など、続縄文時代や古墳時代中期～後期の土器が散見される。

**古 代** 奈良時代には、大館町遺跡、大新町遺跡、小屋塚遺跡において、竪穴建物を主体とした小規模な集落が営まれる。宿田遺跡では、末期古墳と呼ばれる北東北独特の墳丘墓群が営まれ、主体部墓坑から鉄製直刀をはじめとした武具類などが出土した。律令政府によって蝦夷と呼ばれた北東北の人々が、独自の文化を持ちつつ、律令政府と交流を持っていたことがうかがえる。

平安時代初頭、本遺跡の南約 3km の場所に、律令政府によって古代城柵志波城（市内下太田他）が造営されてもなお、本地域の集落様相に大きな変化はみられない。律令政府による統治体制の変化に伴い、志波城から移転した徳丹城（矢巾町）が廃絶する 9 世紀半ば以降、古代の集落は増加、拡散するようである（小屋塚遺跡、大新町遺跡、里館遺跡、他）。

北東北の統治体制が、律令政府から胆沢城鎮守府の権力を掌握した安倍氏・清原氏・奥州藤原氏へと変化する 10～12 世紀の遺構や遺物の出土例は多くない。大新町遺跡、上堂頭遺跡などから 10 世紀後半頃の掘立柱建物跡、竪穴建物跡とともに土器が出土している。赤裳遺跡からは土器焼成土坑が見つまっている。本遺跡の西約 800 m の稲荷町遺跡では、12 世紀後半の掘立柱建物跡と竪穴建物が確認され、当該時期の拠点の一つだったと考えられている。

**中世戦国期** 中世・戦国期の集落様相はよく分かっていないが、市内各所に城館が営まれている。多くは室町時代から戦国時代のもと考えられ、南下してきた南部氏と斯波氏の衝突が激しかったことを物語る。本遺跡北東約 1 km の安倍館遺跡は、大規模な堀跡が残存し、七つの曲輪によって構成される 16 世紀の工藤氏の栗谷川（厨川）城跡である。里館遺跡や安倍館遺跡は、近世近代以降に古代末の安倍貞任の拠点とされ、前九年合戦で安倍氏が滅んだ厨川柵や姥戸柵の擬定地とされてきたが、これまでの発掘調査において、当該期の明確な遺構や遺物の検出はない。

## 2 調査内容

### (1) これまでの調査

**現 況** 現在の里館遺跡周辺は、密集した住宅地が広がる。遺跡付近は、江戸時代には岩手郡栗谷川村の里館、勾当館と呼ばれていた。明治時代以降は岩手郡厨川村に属し、昭和 15（1940）年に盛岡市に編入され、現在に至る。

里館遺跡の範囲は、南北約 250～380 m、東西約 650 m と想定される。南辺は比高差約 3～5 m の段丘崖で、雫石川の旧河道で画されている。西は南北に流れる幅 2～5 m の水路、東は比高 1 m 以下の緩斜面の下端、北辺は滝沢台地との境の後背湿地である。

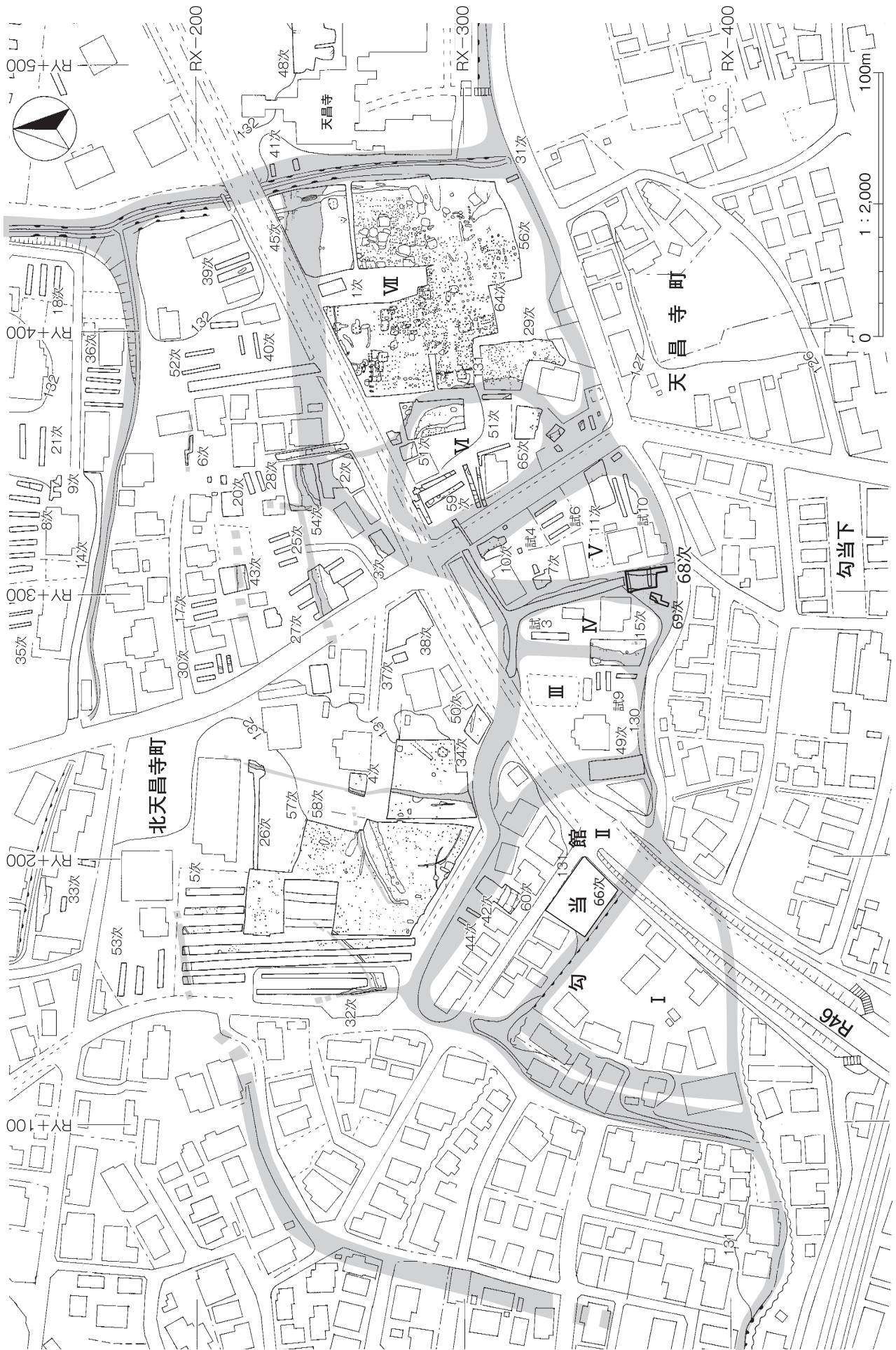
現在では市街地化が進み、旧地形をうかがうことは難しい。里館遺跡に所在する天昌寺に残る近世の古絵図や、古い航空写真、地図等によれば、いくつかの堀跡と考えられる地形が確認できる。

これまでの発掘調査成果から、14～16 世紀の遺構遺物を主体とし、特に東部は 15～16 世紀の城館跡を主体とした遺跡である。安倍館遺跡も 15～16 世紀の城館跡であることから、これら 2 つの遺跡は、栗谷川工藤氏の城館跡であり、里館遺跡が先行し、戦国時代に栗谷川城（安倍館遺跡）が築かれたと考えられている。

第3表 里館遺跡調査一覧

回数	所在地	調査原因	面積 (㎡)	期間	検出遺構・遺物
昭和32年	権現坂17-2	客貨車区建設		1957.05.06～05.11	中世溝跡、柱列、古銭、鉄滓
昭和49年	天昌寺町222-2	保育園建設		1974.06.12～06.23	時期不詳溝跡
昭和51年	前九年一丁目	新幹線建設	4,600	1976.05.17～10.16	縄文後期堅穴住居跡1棟、平安前期溝跡1条、溝跡25条
1	天昌寺町7-13、7-24	店舗新築	1,567	1981.07.28～11.17	中世堀跡2条、溝跡3条、建物跡28棟、柱列跡12列、欄跡2列、堅穴17棟、土坑11基
試掘1	天昌寺町28-4	住宅増築	45	1981.10.27～10.31	遺構・遺物なし
2	北天昌寺町149-1	共同住宅新築	510	1981.11.18～12.05	中世堀跡1条、溝跡1条
3	北天昌寺町150-4	店舗新築	43	1982.04.06～05.14	中世堀跡1条、近世溝跡1条、土坑1基
試掘2	北天昌寺町127-1	店舗新築	500	1982.04.07～04.17	平安時代土師器小片、近世陶磁器小片数点
試掘3	天昌寺町424-4	店舗新築	45	1982.06.28	遺構・遺物なし
試掘4	天昌寺町420-9	貸事務所新築	8	1982.08.17	遺構・遺物なし
試掘5	北天昌寺町2-22	住宅増築	82	1982.09.02	遺構・遺物なし
試掘6	天昌寺町422-2	住宅新築	59	1983.05.13～05.14	遺構・遺物なし
4	北天昌寺町13	住宅新築	48	1983.05.16～05.18	中世溝跡1条、柱穴9口
試掘7	北天昌寺町1-6	店舗新築	227	1984.07.02～07.07	溝跡3条
試掘8	北天昌寺町125-1	店舗新築	37	1985.01.21	遺構・遺物なし
試掘9	天昌寺町426	物置新築	41	1985.07.15	遺構・遺物なし
5	北天昌寺町10-1	福祉センター新築	798	1985.07.25～08.03	溝跡2条、土坑1基、柱穴90口
試掘10	天昌寺町421-3	住宅改築	59	1985.08.29～08.30	遺構・遺物なし
6	北天昌寺町152-13	住宅増築	22	1986.09.06～09.22	溝跡3条
7	天昌寺町420-10	住宅改築	61	1986.09.29～10.09	中世堀跡1条
8	北天昌寺町153-55	住宅新築	220	1987.04.21～04.24	溝跡1条
9	北天昌寺町4-2	住宅新築	23	1987.05.01～05.07	溝跡1条
10	天昌寺町420-2	住宅改築	61	1987.06.02～06.05	中世堀跡1条
11	天昌寺町21-2	駐車場造成	145	1987.06.13	中世堀跡1条
12	北天昌寺町1-2	私道整備	61	1987.07.13～07.18	中世堀跡1条、土坑1基
13	北天昌寺町1-2	住宅新築	62	1987.09.14	遺構・遺物なし
14	北天昌寺町154-3	私道整備	268	1987.11.13～11.16	遺構・遺物なし
15	天昌寺町425-1、2	営業用	181	1988.04.11～04.25	堅穴建物跡1棟、溝跡2条、土坑1基、掘立柱列跡1列
16	北天昌寺町153-53、153-54	住宅新築	60	1988.04.11～04.12	遺構・遺物なし
17	北天昌寺町152-34	営業用	23	1988.09.01	近代以降溝跡4条、風倒木跡
18	天昌寺町143	営業用	112	1988.10.11～10.13	遺構・遺物なし
19	天昌寺町419-4	市道整備	33	1988.10.18～10.21	中世堀跡
20	北天昌寺町2-11	個人住宅	6	1989.11.27	遺構・遺物なし
21	北天昌寺町3-4	事業営業	134	1990.10.22～10.23	溝跡1条
22	天昌寺町246-4、274、248-1	住宅新築	11	1990.12.19～12.20	中世堀跡1条、土坑1基
23	北天昌寺町4-15	個人住宅	30	1991.05.16	遺構・遺物なし
24	北天昌寺町2-8	水道敷設	50	1991.05	遺構・遺物なし
25	北天昌寺町151-1	住宅改築	49	1991.09.09	近世以降陶磁器
26	北天昌寺町8-8、10、11、12、13	店舗増築	91	1992.04.13～04.15	縄文時代土坑1基、平安遺構溝跡1条、柱穴2口
27	北天昌寺町151-1	住宅新築	218	1992.04.27～05.07	中近世大溝跡1条
28	北天昌寺町142-17	個人住宅	31	1992.06.09	遺構・遺物なし
29	天昌寺町246-1	営業用	384	1992.06.15～07.17	中近世堀跡1条、掘立柱建物跡6棟、柱列跡4列、柱穴210口、堅穴建物跡1棟、土坑6基
30	北天昌寺町152-41	店舗新築	27	1993.01.12	遺構・遺物なし
31	天昌寺町245-1	住宅新築	30	1993.04.15～04.26	中近世堀跡1条、護岸跡1ヶ所、近世遺物包含層
32	北天昌寺町10-5、11-2、12-2	店舗新築	120	1993.04.19～04.23	平安時代以降溝跡1条、時期不明溝跡1条、柱穴3口
33	北天昌寺町7-1	個人住宅	73	1994.03.17	用水堰1条
34	北天昌寺町16-1他	店舗新築	1,094	1994.06.06～07.04	掘立柱建物跡1棟、堅穴建物跡2棟、溝跡2条、欄列跡1条、土坑2基、柱穴数十口、戦時中防空壕、近現代室跡1基
35	北天昌寺町153-1	事業営業	123	1995.05.17	遺構・遺物なし
36	北天昌寺町143-7、143-12	個人住宅	82	1995.06.06～06.07	遺構・遺物なし
37	北天昌寺町15-3	住宅増築	26	1995.06.14	古代柱穴2口
38	北天昌寺町15-8	駐車場造成	337	1995.10.17～11.21	遺構・遺物なし
39	北天昌寺町132-34、132-35	教会新築	72	1995.11.06	溝跡1条
40	北天昌寺町142-15、144-10、144-11	事務所新築	39	1996.04.18	柱穴2口
41	天昌寺町224	擁壁新築	24	1996.07.01～07.08	堀跡1条
42	北天昌寺町28-20	駐車場造成	60	1996.09.09	溝跡1条
43	北天昌寺町152-11	住宅新築	137	1996.10.14～10.16	堀跡1条
44	北天昌寺町17-8、9	事務所新築	22	1996.12.11	中世堀跡1条
45	天昌寺町7-13	店舗新築	695	1998.06.08～07.03	中世堅穴建物跡3棟、土坑2基、堀跡2条、柱穴4口、近世溝7条
46	北天昌寺町9-3、9-6	住宅改築	68	1998.09.01	遺構・遺物なし
47	大新町132-6、50	住宅新築	64	1998.11.26	古代以降溝跡1条
48	天昌寺町6-16	庫裡増築	325	1999.04.12～04.16	中近世溝跡2条、柱穴1口
49	天昌寺町417-3	住宅増築	119	1999.06.24～06.28	遺構・遺物なし
50	北天昌寺町15-12、16-4	駐車場造成	79	2000.03.13～03.14	溝跡1条、柱穴5口
51	天昌寺町247-1、249-2	住宅新築	117	2001.06.08～06.12	中世堀跡1条、中世柱穴2口
52	北天昌寺町2-6	事務所新築	47	2003.12.24	遺構・遺物なし
53	北天昌寺町7	住宅新築	69	2005.04.28	遺構・遺物なし
54	北天昌寺町142-18	住宅新築	513	2006.06.05～06.13	中世堀跡4条
55	北天昌寺町4-19	土地売買	14	2007.03.05	遺構・遺物なし
56	天昌寺町242-5、245-1	供養塔建設・駐車場整備	2,130	2011.08.22～11.25	古代堅穴住居跡1棟、中世堅穴建物跡21棟、土坑52基、中近世掘立柱建物跡10棟以上、柱穴1,052口、近世焼土遺構11基、溝跡2条、近世～近代室跡1基、時期不明陥凹土坑1基
57(試掘)58	北天昌寺町10-1、11-1、12-1、16-2、16-3	住宅新築	2,209	2013.10.15～12.26	中世掘立柱建物跡10棟、掘立柱列跡18列、欄列1列、堅穴建物跡1棟、溝跡6条、江戸時代土坑2基、溝跡2条
59	天昌寺町249-2	店舗併設住宅新築	91	2013.10.09	中世堀跡1条、溝跡1条、堅穴建物跡5棟、柱穴28口、土坑7基
60	北天昌寺町17-6、28-20	社屋新築	105	2016.07.04～08.01	古代～中世堀跡2条、土坑2基、柱穴2口、柱穴群1群
61	北天昌寺町8-10	店舗建替	316	2017.03.13、03.16	縄文時代陥凹土坑1基、古代以降柱穴1口
62	天昌寺町13-1	住宅新築	83	2017.05.26	中近世溝跡2条、堅穴建物跡6棟、柱穴16口、土坑5基、カマド状遺構1基
63(試掘)	天昌寺町242-5、242-32、245-1、245-6	保育園新築	218	2017.09.06～09.07	中近世堅穴建物跡11棟、柱穴216口、堀跡1条
64	天昌寺町242-5、242-32、245-1、245-6	保育園新築	1,000	2018.04.02～06.22	中世堅穴建物跡6棟、堀跡1条、中近世掘立柱建物跡10棟以上、土坑9基、柱穴約1,000口、堅穴跡3棟
65	天昌寺町247-4、247-5	住宅新築	137	2018.06.06～06.26	戦国時代堀跡1条、江戸時代以降柱穴8口
66(試掘)	北天昌寺町28-14	福祉施設新築	55	2019.07.16	遺構・遺物なし
67(試掘)	天昌寺町423-6	住宅新築	19	2020.11.10	中世～戦国時代堀跡1条
68	天昌寺町423-6	住宅新築	105	2021.05.13～06.09	中世～戦国時代堀跡1条
69(試掘)	天昌寺町423-1	住宅新築	17	2021.11.18	中世～戦国時代堀跡1条
70(試掘)	北天昌寺町152-5	住宅新築	27	2023.05.12	遺構・遺物なし





第12図 里館遺跡全体図

**調 査** 昭和32（1957）年、岩手大学の板橋源が遺跡東側の旧国鉄盛岡客貨車区建設に伴う発掘調査を実施した（板橋源1959「厨川柵擬定地盛岡市権現坂発掘概報」『岩手大学学芸学部研究年報第14巻』岩手大学）。その後、盛岡市教育委員会が、各種工事に伴う発掘調査を69次にわたって実施している。遺跡中央南寄りにおける第1次調査では、堀跡2条や掘立柱建物跡、竪穴建物跡等を確認した。第2・25・45・54・56・64次調査では、遺跡南東部中心の遺構群、その他調査でも各地点の様相を確認し、大きく7つの曲輪によって構成される城館跡であることが判明してきている（第3表・第13図）。

### （3）令和3年度の調査 第68次調査（第12図）

**調査経過** 令和3年度に実施した第68次調査は、個人住宅建設と擁壁設置工事に伴う調査として実施した。本調査は、令和2年11月10日に実施した試掘調査（第67次調査）において堀跡を確認したため、令和3年5月13日から同年6月9日まで、敷地面積194.73㎡のうち工事によって遺構保存が不可能な104.5㎡を対象に実施した。残りの範囲は地下遺構保存とした（第13図）。

**位 置** 本調査区は遺跡の中央南端に位置し、SD408堀跡を検出した第7次調査区の約45m南側に位置する。本調査区北側のSD408堀跡推定範囲は道路になっており、本調査区の北辺は1.5～2.0mほど高い段丘崖になっている。本調査区範囲を宅地化する際に、北から南へ下がる傾斜地を、南側の道路の高さに合わせて切土整地したと考えられる。SD408堀跡は遺跡南側の沖積地もしくは南端を東西に延びる堀跡に合流していたものと推察される。なお、この本調査区を含む低い地形が北の段丘南岸に食い込む地形は、地元では「堀ッコ」と呼ばれ、堀の跡だと伝承されている。

**調査概要** 本調査範囲は、住宅建設範囲と擁壁工事範囲を対象とし、南半部は遺構保護措置とした。調査の結果、中世～戦国時代（約650～400年前）のものと考えられる堀跡1条を検出した。堀跡の最上層表土及び攪乱土中から昭和初期の陶磁器やガラス瓶等が出土したことから、整地される前から窪地状地形だったことが想定される。検出した堀跡は、北端と中央付近にてトレンチによる堀跡底面と壁面の精査を行い、そのほかは平面形の検出のみとした。

## 戦国時代の遺構

### SD408堀跡（第13～15図）

**位 置** 調査区中央 **走 向** 北から南西に延びる。

**断面形** トレンチ1は逆台形、トレンチ2は箱薬研形。

**堀 込 面** 削平。低湿地状の褐色土層とグライ化層との互層（Ⅱ・Ⅲ層）を掘り込んでいる。

**規 模** 検出延長11.8m、上端幅5.6m、下端幅0.5～0.8m、検出面から底面の深さ2.0m

**底 面** トレンチ1は平坦な逆台形状。トレンチ2は底面に幅0.3mほどの溝状となる薬研状。

**壁 面** トレンチ2に、底面から50cm程度埋没した状態の際に、橋の橋脚など何らかの工作物が設置されていた可能性があるピット状掘込み跡を確認したが、詳細な時期や構造などは不明。

**埋 土** 自然堆積で8層に分層した。トレンチ1では、旧表土（Ⅱ層）と旧地山（Ⅲ層）を掘り込んで構築され、表土（Ⅰ層）が覆っていることを確認した。Ⅱ層は褐色火山灰土に褐色粘土と棒状の酸化鉄（高師小僧）を含む。1・2トレンチで確認したⅢ層は黒褐色土や褐色土に、褐色ないし黄白色の粘土や酸化鉄の粒や小塊を含み、トレンチ2のⅢa層には黒～赤褐色の酸化鉄が厚く浸

透していた。Ⅱ・Ⅲ層は水平に堆積しており、SD408は湿地状の地形を利用し構築されたことを示している。

SD408埋土は、黒色、黒褐色、褐色のシルト質埴土を主体とし、火山灰砂質土、地山崩壊土の黄白色粘土、酸化鉄などを含み一部がグライ化している。底面は地山火山灰砂土及びグライ化粘土層を掘り込み、白色～黄褐色粘土や酸化鉄が沈着している。

以下、各トレンチの埋土状況を概観する。

**トレンチ1**：A層は黒褐色から暗褐色土を主体に、粉～粒状の褐色土や黒褐色土を含む。B層は黒色土に粉～粒状の褐色土と酸化鉄を含む。C層は黒褐色土に酸化鉄粒と褐色土粒を含む。一部に粉状の黄白色粘土を含む。D層は暗褐色土に粉状の白色粘土と酸化鉄を粉状に含む。E層は暗褐色土に褐色土を粉～粒状に含む。F層は暗褐色土に褐色土、粉状の酸化鉄を含む。G層は暗褐色土を主体に黄白色粘土を粉・粒・塊状に含む。H層は暗褐色土に褐色土と酸化鉄を粉～粒状に含む。

**トレンチ2**：A層は黒～黒褐色土を主体に、粒状酸化鉄と一部に黄白褐色粘土粒を含み、A2～5層はややグライ化している。B層は黒褐色土に褐色土、白色粘土粒、酸化鉄粒～塊を含み、B1～3層はややグライ化している。C層は黒褐色土に粒状の黒色～暗褐色土と粒状の酸化鉄を含む。D層はグライ化した暗褐色土に、酸化鉄粒と白色粘土粒を含む。E層は壁面を掘り込んだ小ピット埋土であり、E1・2層は黒褐色土に褐灰色土の粒を多く含み、E3層は灰褐色土に黒色土粒やオリーブ褐色粘土粉を含む。

**土 塁** 埋土状況から、北西側に掘削土を積み上げた土塁を伴っていた可能性がある（トレンチ1のA層）。

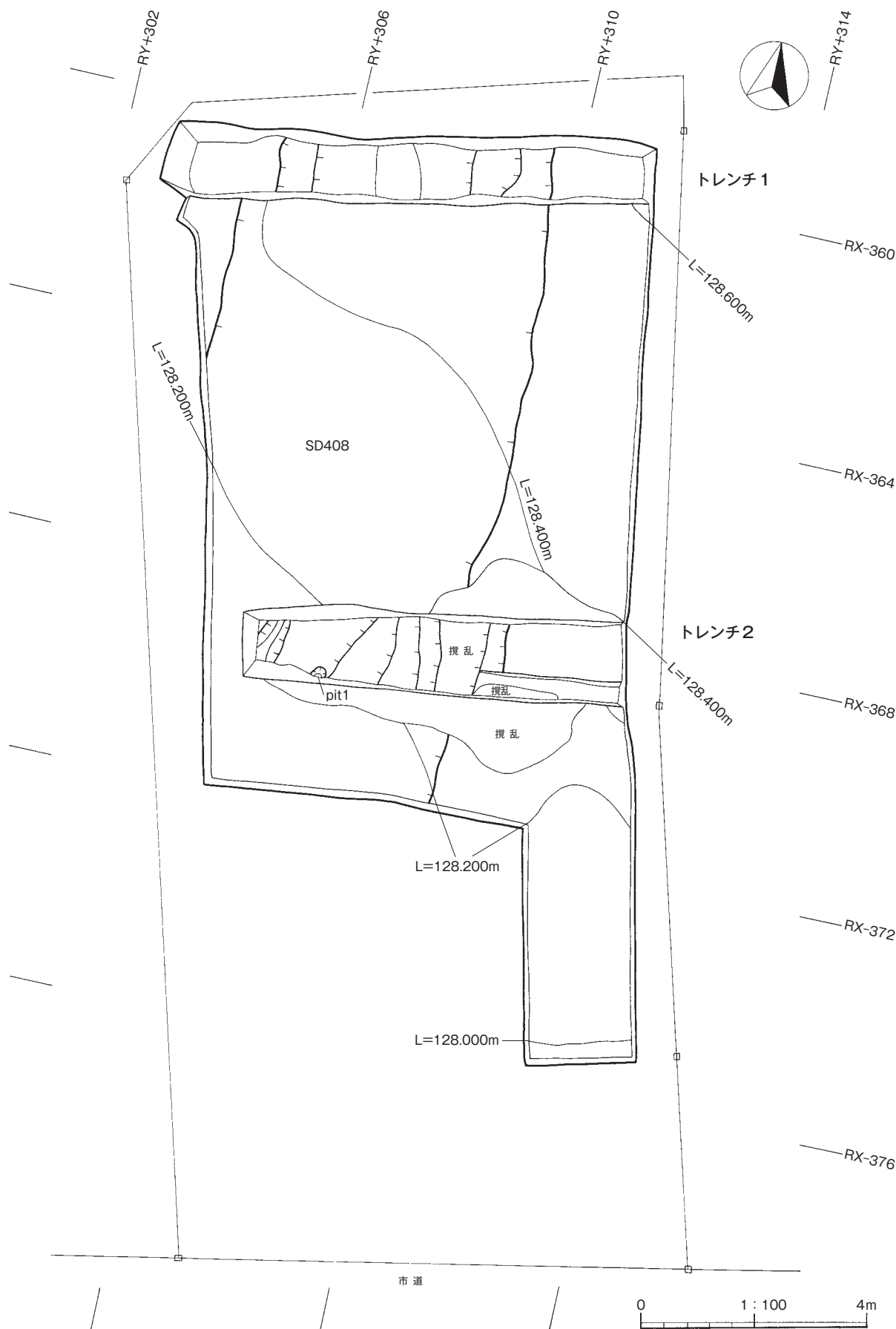
**出土遺物** 堀跡に伴う遺物は無い。表土及び攪乱、A層から、昭和前期の陶磁器、ガラス瓶などが出土した。国鉄盛岡工場物資部銘の陶磁器（碗の蓋）が含まれる。

**時 期** 底面からの出土遺物が無かったため詳細は不明だが、第7次調査時に北側で検出したSD408堀跡から継続するものである蓋然性が高く、連続する中世～戦国期の堀跡と考えられる。

### 3 調査のまとめ

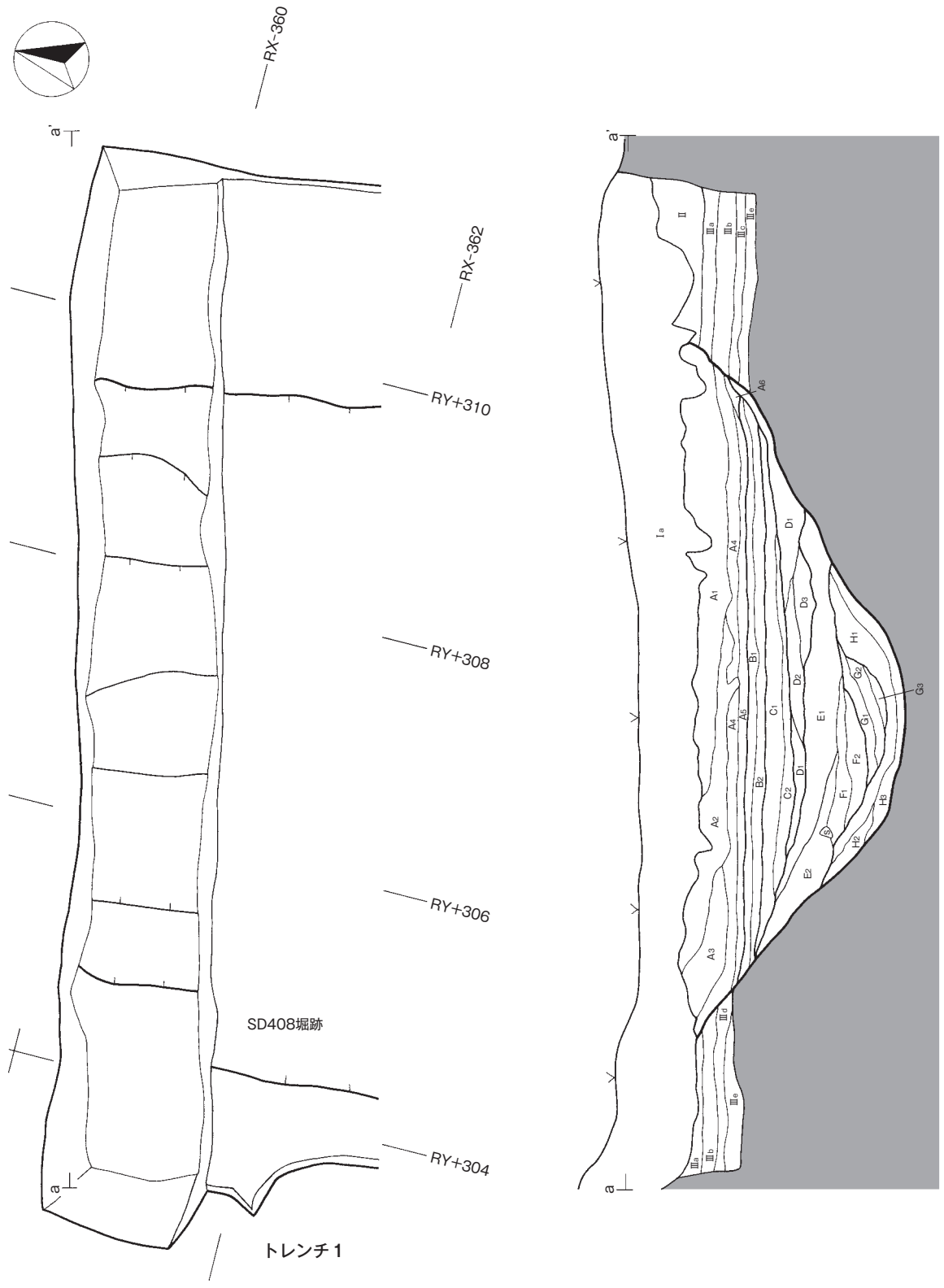
今次調査地点は、古くから地元で「堀ッコ」と呼ばれており、窪地が段丘南岸に食い込んだ場所であった。本調査区では、第7次調査で検出した南北に延びるSD408堀跡に続く堀跡を検出した。トレンチ2において、半ばまで埋まった状況から掘り込まれた橋の橋脚など工作物の可能性があるピットを確認した。

堀跡に伴う出土遺物がなく詳細な年代は不明だが、位置や埋土の状況からSD408堀跡の延長と考えられ同年代の中世から戦国期のものと考えられる。土の堆積状況から、この地点では中世～戦国時代に自然流路もしくは湿地帯になっていた地形を生かして掘削構築されたものと考えられる。SD408堀跡埋土最上層からは、昭和初期頃の陶磁器やガラスの破片が出土したため、その頃まで窪んだ地形であったことが想定され、堀ッコと呼ばれていた事も理解できる。（今野公顕）

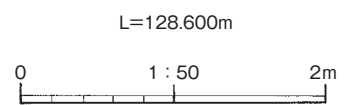
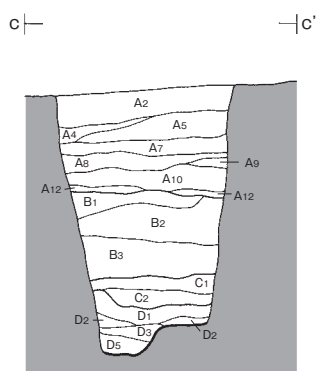
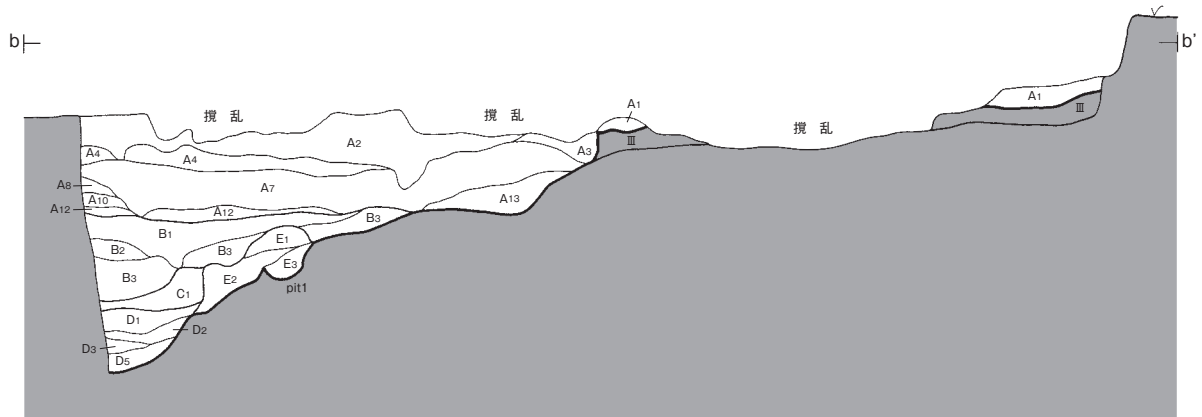
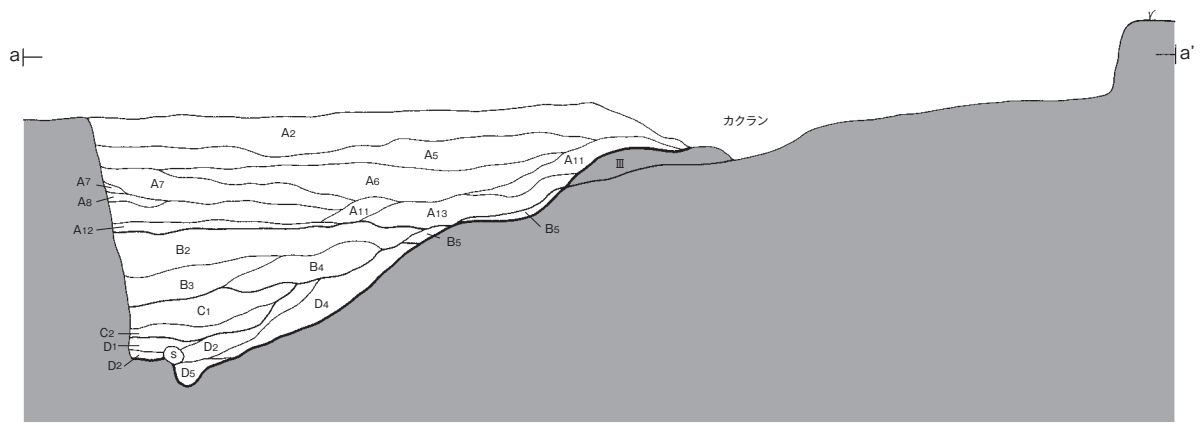
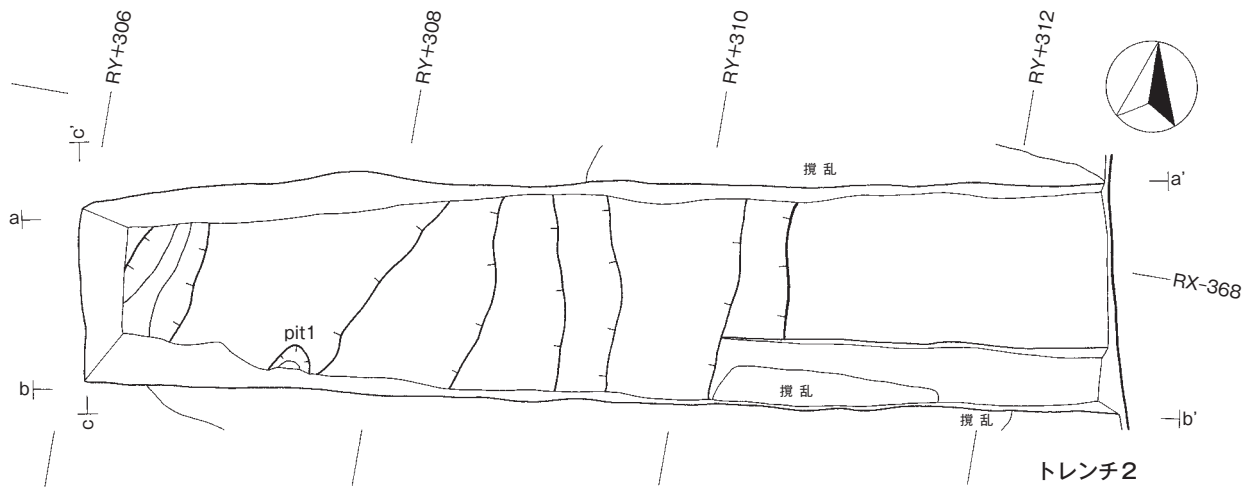


第13図 里館遺跡第68次調査全体図





第14図 SD408 堀跡 (1)



第15図 SD408 堀跡 (2)



# 写真図版







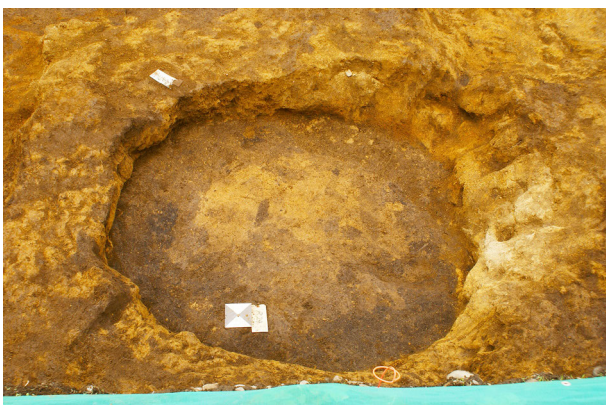
小屋塚遺跡 第45次調査区全景（南東から）



RA7102 竪穴建物跡 全景



RA7103 竪穴建物跡 全景



RD7129 土坑 全景



RX7000 土取跡 全景





里館遺跡第68次調査区全景（南西から）



里館遺跡第68次調査区全景（南東から）



SD408 堀跡トレンチ1全景



SD401 堀跡トレンチ2全景



SD401 堀跡トレンチ2 ピット



# 報告書抄録

ふりがな	もりおかしないいせきぐん							
書名	盛岡市内遺跡群							
副書名	令和3年度発掘調査報告書Ⅱ							
巻次								
シリーズ番号								
編著者名	鈴木俊輝、神原雄一郎、今野公顕							
編集機関	盛岡市教育委員会 盛岡市遺跡の学び館							
所在地	〒020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋13番地1 電話 019-635-6600 Fax 019-635-6605							
発行機関	盛岡市教育委員会							
発行年月日	2024年9月27日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号	世界測地系				
こやづかいせき 小屋塚遺跡	いわてけんもりおかし 岩手県盛岡市 だいしんちょう 大新町10-8	03201	LE06-1098	39° 42' 56"	141° 07' 10"	2021.04.19 ～ 2021.05.31	65.15	個人住宅建築
さたていせき 里館遺跡	いわてけんもりおかし 岩手県盛岡市 てんしょうじちょう 天昌寺町 423-6			39° 42' 44"	141° 07' 09"	2021.05.13 ～ 2021.06.09		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
小屋塚遺跡 第45次	集落	縄文時代	竪穴建物跡 土坑	3棟 9基	縄文土器、石器			
里館遺跡 第68次	城館	中世～ 戦国時代	堀跡	1条				

# 盛岡市内遺跡群

— 令和3年度発掘調査報告書Ⅱ —

2024年9月27日 発行

編集 盛岡市教育委員会 盛岡市遺跡の学び館  
〒020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋13番地1  
TEL 019-635-6600 FAX 019-635-6605

発行 盛岡市教育委員会  
印刷 小松総合印刷株式会社  
〒020-0827 岩手県盛岡市鉾屋町15-4  
TEL 019-624-1374 FAX 019-623-6719